

ウォーター ラッセル博士について

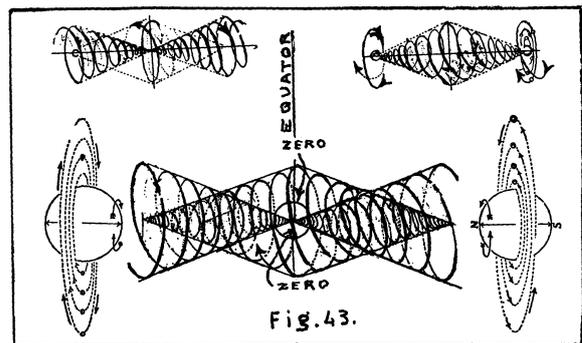
ウォーター ラッセル博士は世界に始めて核エネルギーの基礎となる 2 つの放射性元素の存在と重水と、水素爆弾の基礎となった 2 つの水素同位元素を明らかにした。

それは、1926 年に科学界に発表したウォーター ラッセルの図の中に URIDIUM と URIUM として書かれた放射性物質と、ETHLOGEN と BEBEGEN として書かれた水素の同位元素である。

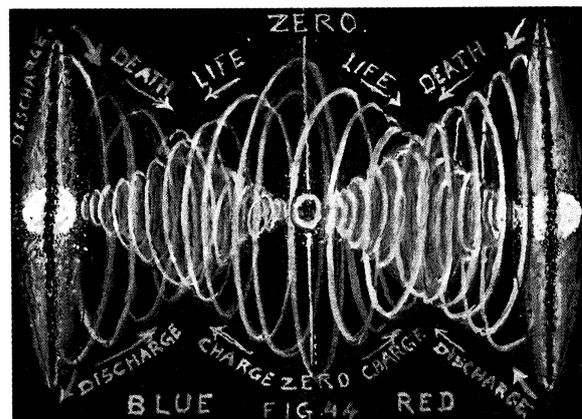
3 年後の 1929 年にこの水素の同位元素は確認され、DEUTERIUM と TRITIUM と新たに名前を付けられた。

13 年後の 1939 年には残りの 2 つの放射性物質も確認され、プルトニウムとネプチウムと新たに名前がつけられた。この容易に確認できる観点からすると、読者は自然の原理とその過程の深い理解を通してのみ可能であったことがわかるであろう。この放射能の基本的認識は、地球上のすべてのかけがえのない生命にいか

に破壊的であるか、科学的権威をもってここに発表された。



Complete life-death cycle as manifested in the electric current.



Complete life-death cycle as manifested in the heavens.

THE SECRET OF LIGHT

光の秘密

「神のイリアッド」は、この本の基になっています。

「神のイリアッド」は、人類の、来たるべきサイクルのために、神と、人にとってこの宇宙に対する関係の必要な理解のために創造者から啓示されたメッセージです。

人類は、およそ2500年のサイクルで進歩します。

各サイクルの初めに、発達しつつある、光の認識の範囲内で、神は光の理解のために用意された使者を通してメッセージを送りました。

この宇宙メッセージの理解はより高次元の存在に徐々に人類を昇進させます、このように、各サイクルは人が神と光と一致する完全な認識のためのもう一つ上のステップです。

WALTER RUSSELL

ウォルター・ラッセル

DR. FRANCIS TREVELYAN MILLER (LITTD., LLD.)

DR. フランシス・トレベリアン・ミラー (LITTD. (LLD.))

HISTORICAL FOUNDATIONS, NEW YORK WROTE IN 1947 OF THE SECRET OF LIGHT UPON ITS PUBLICATION:

1947に書かれた光の秘密をニューヨークのHISTORICAL財団、は出版した：

「光の秘密」を出版する今、あなたの画期的な業績について祝福する最初の歴史家として、私は急いでこれを報告します。あなたは数学的な精度で、宇宙の4つの原則を述べました。

膨大な思考の結果としての、この小さな本であなたは科学と人間の知識を再生し、その物理的平面から宇宙的次元にその巨大な可能性を移住させた。

あなたは、無限の科学へのドアを開けた。

それは、驚かせるかもしれません；

それは論争を生むかもしれませんが、しかし、結局どちらにしても彼自身と世界、世界と人間の問題の概念に革命をもたらし、あなたが確立した原則を無視することはできません。

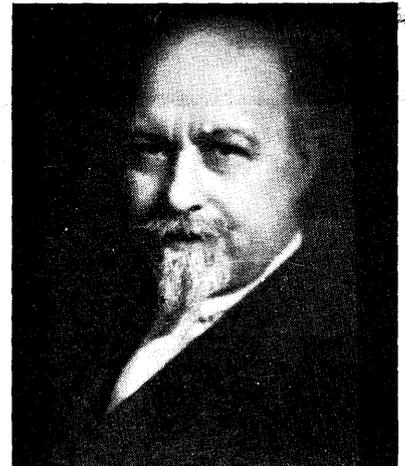
歴史家として、私は全ての個人と、国の発展の後、長いこと、原因と結果の法則を捜していました。

これらあなたの三角法の図と数学的な表現にある、仰天するほどの意外な事実は、私の探査に新しい地平線を与えます

あなたは、以前の世紀の間、プトレマイオス、ユークリッド、ケプラー、コペルニクス、ガリレオがしたのと同じことを、この20世紀に我々のためにしました。

しかし、さらに全ての物理的障壁を看破し、我々の世界をつくり、数学的な精度で運転される無限の法則に、年月を通してあなたの発見を延長しました。

今まで、これら無限の源泉を調べる科学は、これらを定めようとしませんでした。



それを、聖職者と神学上の弁証法の領域の問題にしました。

あなたは、存在するすべてに動機を与える創造的で精神的な法則を調査するために、これらが無視したところから始める勇気と展望を持ちました。

アインシュタインの相対性よりはるかに大きい原則。私は、あなたを我々の次世代科学として歓迎します。」

光の秘密

ウォルター ラッセル著

THIS MAGNETIC-ELECTRIC UNIVERSE

IN POSTULATES AND DIAGRAMS

図1 休止点から拡散する運動を表す愛のシンボル

神は光である。

神は、愛である。

神のつくる宇宙は、愛によって作られる。

それは、光によってつくられる。

愛の原則は、与える欲求である。

神は、光を広げることによって愛を与える。

神の愛は、愛を与え、愛をうける反射する光の鏡である。

愛の法則は、与えることと再び受けることの間のリズミカルなバランスのとれた交換である。

愛のシンボルは、与えるのと受けるのが等しい、二重の光の律動的波動である。

これは、光をやりとりする二重の電磁波の宇宙である。

(図1)

神の愛は、至る所にある；

神の光は、至る所にある。

それは無であるが、宇宙の神の全知は善である。

悪は、小人が考えだしたものである。

遍在する静寂のゼロ点から他のゼロ点へ放射状に、

神は愛と力と知恵を神のイメージを与えたいという願望の基準で広げる

中心の休止点から次の休止点までの拡張がエネルギーの強度であり

エネルギーの大きさを決定する。(図2)

THIS RADIAL UNIVERSE

放射宇宙

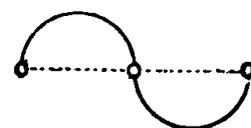


Fig. 1
Symbol of love extended
from rest to motion

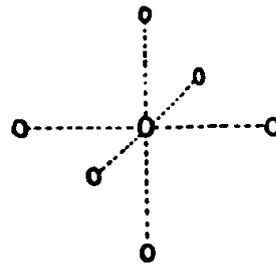


Fig. 2
Symbol of power extended
from rest to rest

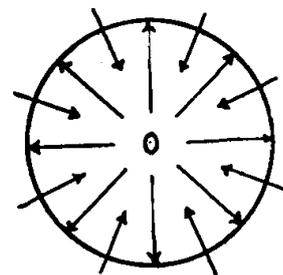


Fig. 3
The radial universe

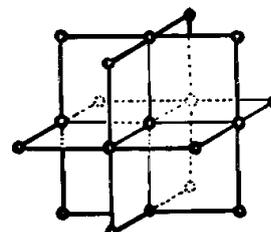


Fig. 4
God's projection mirrors
of action

全の自然のメカニカルな原理と、放射拡張に伴う当然の効果として、光の運動のイリュージョンが産出される。

そのため、宇宙のバランス原理から、引力と放射と、電氣的圧力の対立など、みかけの増大と縮小が可能になる（それは変化する宇宙の基礎を作り上げる）（図 3）。

長さ、幅、厚さをもつ三次元物質が放射状に広がる宇宙で、

休止点から休止点に、時間を変え動きを変えて、

神のイメージした宇宙空間が生成され広がる。（図 4）

磁気ライトは 3 面で、お互いが直角に反射し、休止点から他の休止点まで広がる。

（図 4）

図 2 休止点から休止点まで広がるパワーのシンボル

図 3 宇宙の放射

図 4 神の投影と鏡の反射

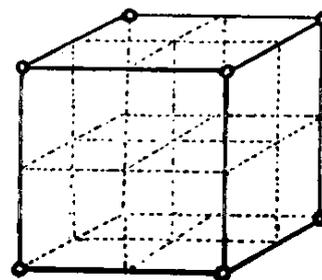


Fig. 5
Mirror planes of reaction

p220

図 5 反応の鏡面

図 6 爆発

図 7 対抗するリアクション

ゼロ湾曲平面の 3 つの鏡の中心からの神の投与は、再投影と再投与のために、

6 つの互いに対立する鏡の平面への放射状に投影し、リアクションによって、神の欲求のカーブする電氣的な宇宙のイメージの形が再保持される

（図 5）

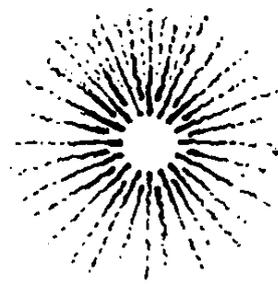


Fig. 6
The explosive action

p222

BIRTH OF WAVE FIELDS

波動フィールドの誕生

愛を与えたい神の欲望は、支点の働きをする休止点の中心から、外部への爆発として投影される活動で明らかになる。

再び与える欲求は、同時に「radarred」探知されるが

あらゆる点に広がるアクションは、再保持のために戻るのである。

自然の全ての動きは、それ自身と等しいポテンシャルのイメージの鏡像に、絶えずに消える。

自然の投影されたすべての動きは、再投影するためにゼロ湾曲の波動フィールド境界面に

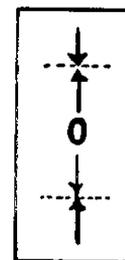


Fig. 7
Simultaneous reactions

逆向きの同じリアクションで回帰し、これが反響として順番に繰り返される。(図 5 と 6)

自然の (図 7) すべてのアクションは外部へのゆっくりとした爆発であるか、ダイナマイトの爆発、または原子爆弾のような急速な爆発である。

これに対するリアクションの、全ては、内部への内向きの爆発である。

形を無化するアクションは、再び形を再形成する。

形を再形成したあとのリアクションは、再び形を無化しようとする。

アクションは、放射の基礎であり、放射のリアクションは、引力である。

(図 8) 宇宙の中、至る所でアクションが繰り返される

ハーモニックな中心は、他のハーモニックな中心へ、欲求と同じだけ動き、結果として、外部に広がる。

ハーモニックに計測される爆発は、神の遍在する全ての宇宙空間を同じように満たす。

(図 9)

外部への爆発が互いに接するとき、それは球にはならない。

なぜならば、全ての空間は充満たされなければならない。

破裂したテニスボールの曲面が他と出会う 6 つの接点を、つないで徐々に平面化していくと立方体になる。

同様に、外への爆発は、6 つの面をもつ立方体になる。

(図 10)

外部と内部への爆発は球が他の球と出会う 6 つの接点の方向に、最大の抵抗点ができる。

従って、これらは球にはならず、立方体の対角線をつくり、最少 8 つの抵抗点をつくる。

(図 11)

オクターブの音の波の基礎になる二方向の力の 8 つの結節点が、このように発生する。

(図 12)

外部と内部への互いに逆の爆発は、2 つの対立する圧力を高める。

外部の方向へ、放射状に広がることによって、ポテンシャルを減少させる。

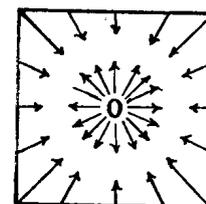


Fig. 8
Sequential reaction

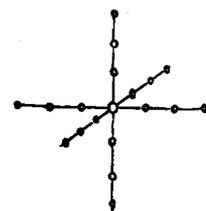


Fig. 9
All action is omnipresent

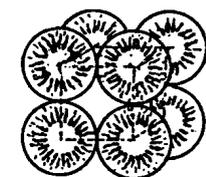


Fig. 10
Repeated explosions meet

図 8 Scquential 限られた領域の中のリアクション

図 9 全ての動きは、遍在する

図 10 爆発の反復が会って

p221

図 15

半サイクルは、太陽から、あらゆる物体をつくる立方体への結晶化運動である。

他の半サイクルは、新しい物体をつくる目的でその形を無にする太陽への復帰である。

あらゆる運動のサイクルは、熱にむかい、再び冷却へ回帰する。

全ての物体は、凍ることによって生まれ、溶けることによって無になる。

全ての物体の冷却点と溶点は、それぞれの密度と電気条件次第である。

地球の粘土状の球は、形の無化された太陽の光の種となる。

この粘土状の立方体を束ねた形で拡大した地球は、天にまで達するところの子宮である。

それはまた、全ての形が、

新しい形を天から再投与されるために一度は無にされる墓である。

自然の中のあらゆる形式は立方体または球であり、または両方の混交体である。

複雑な物体は、波動フィールドの倍数つまり、空間の立方体の倍数で囲まれた球である。

全ての結晶の形は、立方体の発展である。

これらの形は、これらの波動フィールドの位置で決定する。

(図 15)

空間の立方体の波動フィールドには、2つの対立する状態の間の運動の全てをやりとりする境界がある。

運動は、この平面を通り抜けることができず、シンメトリックに後方に反射するか、波動フィールドの中心からシンメトリックに前方へ、広がる。

各立方体の中のフィールドはカーブする2方向の光が作り出すイリュージョンの世界である；

空間の波動フィールドの一番遠い領域から手前の波動フィールドへ

毎秒 186,400 マイルの割合で発生するイリュージョンの繰り返しである。

あらゆるアクションとリアクションは同じ速度でどこでも繰り返す。

この運動のイリュージョンは、光の運動が実在であるという信仰を与える。

中のゼロ湾曲の波動フィールドの境界面は、波動フィールドの運動の、全ての効果を絶縁する。

中心の波動フィールドは、白熱化した球の仲間である。

全フィールドのポテンシャルは、球の中心で増大した物質と、周囲のスペースの減少した物質の間を均等に分割したものである。

電子の1つの重ささえ、宇宙の各波動フィールドの中の、同じ特性の波動と、それに対立する波動との釣り合いのなかにある。

中心の球は高いポテンシャルで、周囲の空間は低いポテンシャルである理由は、ボリュームの違いにある。

中心の球は、直径2、3千マイルで、その周囲の空間は100万倍あるかもしれない；

これらの質量は違うが、ポテンシャルは同じである。

それ自体が、絶えず、サイクルの反復で全てを他に与え交替しない限り、どれもその独立条件を維持できない。

図 11 爆発の繰り返しで、圧縮される

放射状のエネルギーを圧縮することによって内部への力は増幅される。

この、二方向の運動が電氣的な宇宙に動機を与え、対立する2つは、

平衡状況を生み、イリュージョンの効果をうみ、物質の2条件の相互交換は、すべての鼓動と創出を引き起こす。

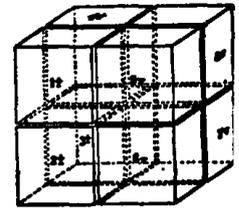


Fig. 11
Repeated explosions com-
press

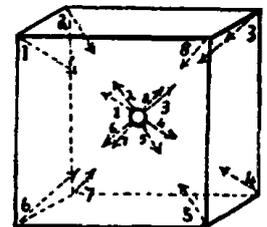


Fig. 12
The eight two-way direc-
tions of force

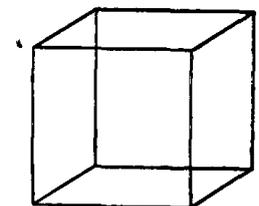


Fig. 13
The cube

立方体と球

反対の状況をやりとりするペアが、相互に生まれ、同様にお互いの交換の結果から自然の全ての対立が生まれる。

立方体と球の形式の2つの対立から、全てのものが発生する。

図12 2方向の8つの力

父と母の形式だけで、全ての形が生まれる。

(図13,14) 球と立方体で宇宙のバランスの原則が明らかになる。光波の位置は波の圧縮と拡大の互いの対立が終わり、バランスがうまれる位置にある。それは波形振幅の谷または頂点として知られている。

図13 立方体

炭素と塩化ナトリウムは、正確に立方体に結晶化した良い例である。

この原子の単位は、正確な球である。

ナトリウム-ヨウ化物またはナトリウム-臭化物は、そうでない。

これらは正確な立方体の平面近くの均衡を失った位置で、波の振幅が、結晶する。

立方体と球は同じ1つのものの、違う現れである。同じものの、2つの対立した姿である。

球は立方体が白熱化したもので、立方体は球が冷却され、暗黒にされたものである

図14) 球

あらゆる光波のなかの球は、その寸法に関係なく、白熱の太陽である。

例えば扁球 (Prolating spheres 凝固縮小する球ということか訳者) である我々の惑星の内部の中心を冷却する間、我々の長球である太陽 (oblatting spheres 放射拡大する球ということか訳者) の内部の中心を白熱にする。

立方体は、球から生まれ、白熱の光を天空の冷却した闇の方へ放射することによって創造主の形を生産する欲望を成し遂げる。

逆に、単1体でありたいという欲望をみたすために天空の漆黒の冷却から光を再放射して、立方体から球がうまれる。

物質の全ての形成形式は、父の光(白熱の球)-と母の光(冷却された立方体)との間の永遠の相互変換である。

全ての形は、空間の冷却の方向に生まれ、白熱の方向に無化される。あらゆる物体の形は、太陽のるつぼから、光が冷却化されて空間に出現する。

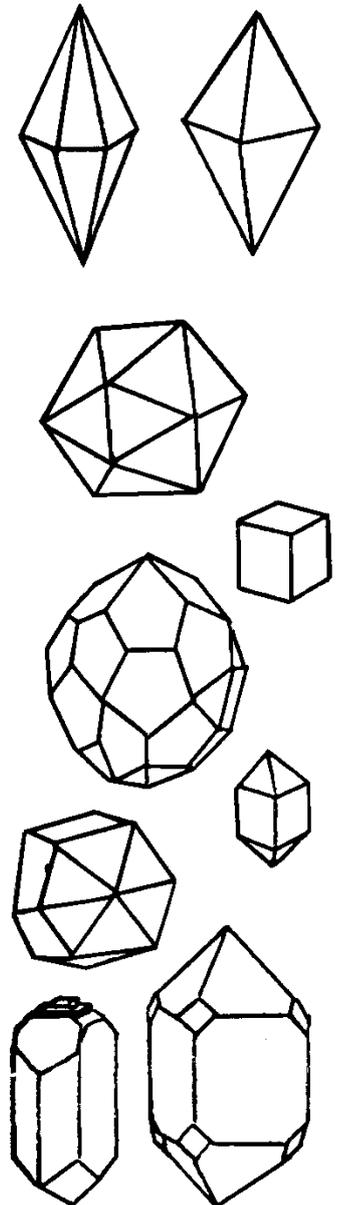


Fig. 15
All crystals are cube sections

p223

空間を満たすために、球は、息を吐いて自らを解放し
空間の立方体自らを変換して、与えなければならない。
空間は、それ自体を放出して、球をリチャージするために
自ら息を吐いて再投与し、球に回帰しなければならない。
固体がスペースに完全に消えるまでの生と死の長いサイクルよりも、
各が相互交換する短いサイクルがあり、
空間は固体になるためにポテンシャルをやりとりする。
この原則は、内から外へ 外から内へと反転を繰り返し、永遠に全ての
形が順番に現れ、

消え、再び現れる自然の輪廻がうまれる。

球の吸気は、低いポテンシャルから高いポテンシャルを生成する。

自然の形の発生のプロセスは、引力の中にある。

球の呼気は、低いところにむかって高いポテンシャルを放射する。

自然の崩壊プロセスは、放射である。

引力と放射はポテンシャルの上と下への表れであり、このエネルギーの増大と縮小の

自然の全ての活動は、放射状に広がる遍在する磁気ライトの中心点からの投影によって可能になる。

引力は、内部へ螺旋状に中へ引き入れ、固体の中心空間に光波の流れをおくる

流れの無い濃度の高い固体はその固体を囲む空間の外へ螺旋状に放射する

各々は、等しく他と反応する。

各々は、他に順番に交代する。

p228

波動フィールドの中の引力は、最大の白熱点の方へ圧縮する、求心的な圧力であり、

ポジティブな電気的原則である。

それは、エネルギーの「下りへの流れと「上への流れ」を

常に統合する自然の父と母のバランス原則の中の、父の原則にある。」

図 16 重力と放射のミステリー

放射は、磁気光の波動フィールド境界面から、遠心的にその圧力を用いるネガティブな電気的原則
である。

それは「エネルギーの下り坂の流れ」の原則を崩壊させ、

「上り坂の流れ」によって永遠のバランスを回復させる自然の母の原則である。

創造主の欲求は片側の1サイクルだけでなく、2つを各々対立させながら、運動のパワーを広げる。

重力は、物体を形成し形づくる。放射は、地球に物体として再生するために、

天空のスピリットな空にむかう。

重力は内部への爆発的な反応で、放射と外部への爆発のリアクションとして、半サイクルが生じる。

このように、全ての対立を交換する相互変換の法則が成し遂げられる。

小宇宙でも大宇宙でも、大きさに関係なくあらゆる物体の中心にある磁気光の静かな休止点で、こ
の半サイクルは終わる。



Fig. 16
The Mystery of Gravitation and Radiation?

その運動が終わるとき、重力も終わる。

「重力の中心」は、自然の中にはない。

あらゆる質量の中心の光は、磁気光である。

同様に、あらゆる渦の静止軸は、磁気光である。

放射は、休止点からその半サイクルを開始し、重力の始まる磁気光の波動フィールドの境界面で、終わる。

その運動が終わるとき、放射も終わる。

重力と放射は、それが始まる休止点と、運動の終わる休止点でバランスを見つけ再度力を借りる。

それぞれの運動のあらゆる点で、各々別々に借用を返す。

各々は、絶えず他に与えることによって自らを無にする。

各運動の終わりで、対立している各々は、すべてを他に与えることで相殺される。

そこで、他のものに生まれ変わる。

自然の至る所で、一つ一つの動きそれ自身がリアクションである。

「死は、生命が生きるための命を与え、生命は死が死ぬところの死を与える。神のイリアッドより

「自然のすべての活動は、この原則のなかにある。

空気中に投げられたボールは休止点から始まらなければならない。その支点である地球の「『重心』から借りたエネルギーによって動機がうまれる。

投手の手の中の休止点は、地球の静かな中心の拡張である。

ボールが上がる過程で、それは空間から借りたエネルギーを支払いつつ減速する。このように、地球から空間は借用し、地球にそれを同じだけ放出し返却する。

借用が完全に支払われると、ボールは停止する。

空間は地球から借りたエネルギーを、再び地球への復帰のために返して、埋め合わせなければならない。

地球への加速的な運動で、**空間は**全ての借入と支払いを**バランスさせるために、上昇の半サイクルの各点と同じ速度で、**各々の点を通り過ぎ、**地球が請求するものを放出する。**

自然の中のすべての動きは、ゼロからの拡張とゼロへの再度の帰還である。

全ては、同時に、順番にバランスをうみだす。

これは、表面上多様であるが、光のゼロは決して上回らない、プラスマイナスゼロの宇宙である。

OPPOSITE ELECTRIC CONDITIONS

対立的電氣的状況



この宇宙の出と入りの平衡状態であるゼロから

2つの対立による運動と変化をどう解釈するかシュミレートしてみる。

この2つは、プラスマイナスゼロで平衡状態にある;

(図17) プラスとマイナスの電気。

Fig. 17
X plus zero equals zero
minus X

宇宙の平衡状態のゼロ点から借り入れた圧力、すなわち大きいボリュームは最後には少ないボリュームに圧縮されると定められている。

ゼロに対してマイナスの、借りだされた拡大を元に戻すために、拡大を圧縮して、バランスを回復

させる。

銀行から借りたプラス 1000 ドルのクレジットの条件に釣り合うものは 1000 ドルの借り入れである。中心のゼロは、銀行を意味する。

図 17 はゼロからの拡張である貸し方と、縮小である借方を表す。

対立する両方はイコールである。。

1000 ドルの信用は、ゼロでバランスする。

クレジットが部分的にまたは全部払われると、同時に

クレジットと釣り合う借方は無にされる。

クレジットと借方の 2 つの対立した条件は、

自然の運動の原因である圧縮と拡大の

2 つの対立する条件と一致する。

両方がゼロで、バランスしている圧力が、

対立した状況に縮小され、広大されるとき、二つの間の

運動がうまれる。

バランスを失った状況は、ゼロ点でお互いを交換して

バランスを回復せずにはいられない。

これは、電流の原則である。

図 18 は、同じ等しい圧力の部屋である。この部屋の中の 2 台のタンク

は、

管と豆栓で接続されている。

1 台のタンクに全ての空気をポンプで吸い上げると、2 つの間にプラス

マイナスの状況がうまれ、運動は避けられなくなる。

図 18 は基礎的運動

自然は常にこうして各々の反対側に変換される。

コックを開けると、プラスのタンクから外部への爆発が、起きる。

同じように空にされたタンクに、内部へのポテンシャルの爆発が起きる。

プラスのタンクは、マイナスを無にするために圧縮されたものを放出する。

電気のバッテリーも、同じ原則である。(図 19)

自然の中では、太陽から外部に爆発し放出された放射を、

同時に引力として内側に向かって爆発させる。

p233

CAUSE OF THE UNiVERSAL PULSE BEAT

宇宙のパルスビートの原因

物質と空間には、図 18 と 19 図のような、

交換運動に必要な、2 つの間の明確な差がある。

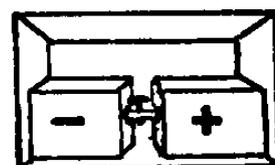


Fig. 18
Basis of Motion

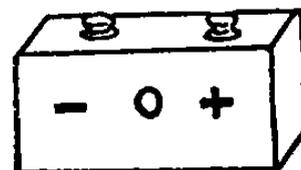


Fig. 19
Equal opposite potentials

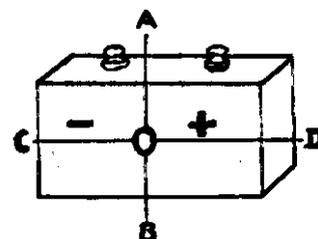


Fig. 20
Balanced interchange
between equal conditions

片方のタンクに圧縮され放出される空気と電気バッテリーの2つのセルの関係では、
ボリュームだけをみると等しいが、物質とその周囲の空間との関係では、ボリュームは等しくない。

空間の拡散された状態は、その中心に圧縮された物質条件より
ボリュームにおいて何百万倍も大きい。

これは、固体の物体が地球の方へ落ち、
ガスが空間の方へ上がる、引力と放射の表面的ミステリーを説明する。

両方のセルを接続するワイヤーが十分に太いならば、
電気バッテリーの、2つの圧力状況の間の交換は爆発的な閃光でショートして両方を無化する。
両方のセルを細いワイヤーで接続すると、アンバランスを解消させる交換を時間をかけて
完了する。

この細いワイヤーの条件では分割払いで支払うようになる。
ワイヤーは両方の差を直ちに無効にするのには大きさが十分ない。
2つの対立した圧力を与えると当然電流が振動する。
電氣的な交換は、分割払いで支払われ、波動と時間要素によって測定される

p234

このインターチェンジの記録は、波動周波数である。
これは、電流のパルス・ビートを構成する。
電線が電流の周波数でパルスをつとぎ、それは通電していると言う。
流れが切れ、パルスが終わるとき、我々はワイヤーが切れたと言う、
それはもはやパルスしていない。

空間の外部と、物体の内部への宇宙の呼吸は測定され、
宇宙の電磁的鼓動と自然の全てのパルスは周波数で正確に計れる。
2つの対立する圧力条件の間で、呼吸する物質交換の休止で
人体のスイッチが切られると、人は死んだと我々は言う。

物体と空間の間の「相互変換の分割払い」のミステリーを解くことで、
相互変換する周波数も、呼吸も、生命に関係するパルスビートも、
より完全に理解することができる。
なぜならば、生命もエネルギーも、この運動の原則に、関連するからである。

このミステリーを解く最初の一步は、物質と空間の C-D 線を境にして
ボリュームが等しい原則の中にある。

図 20、2つの圧力を分割する線 AB で、電気バッテリーの両方は平衡状態
にある。

この AB 線は、ダイナミックな赤道-CD 線に直角に広がる休止面で、
静的赤道をあらわす。

p235

図 20 平衡状態の間のバランスのとれた相互交換

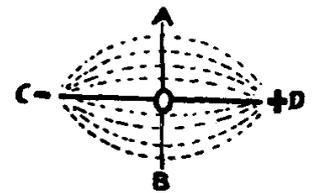


Fig. 21
Symmetry of the cube
AB Static equator CD
Dynamic equator

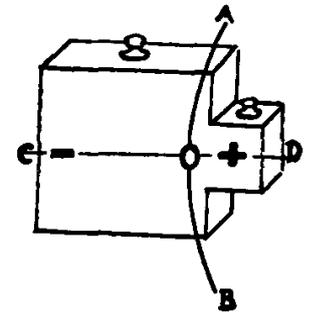


Fig. 22
Interchange between un-
equal opposites

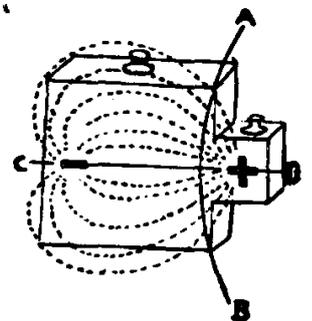


Fig. 23
Curvature increases

図 21 シンメトリーな立方体の静的な赤道 AB と ダイナミックな赤道の CD

図 22 等しくない対立する電極の間の相互交換

図 23 湾曲の増加

図 21 の、静的な赤道とダイナミックな赤道（または磁気と電気）は互いに 90 度になる。

休止点の面から直径に対して等しくシンメトリックに広がる 2 つの対立する力線は、

あたかも、互いに対して、直角に置かれた鏡で両方を映したようである。

このシンメトリーは、立方体と球を形成する。

図 22 は、電気バッテリーのポジティブなセルと非常に大きなネガティブなセルを表す。

静的赤道とダイナミックな赤道は互いに直角である、しかし、静的赤道は中央

の位置にない。

2 つの対立した圧力の間で交換する力線は、ダイナミックな赤道のみが左右対称であり、静的赤道では左右対称でなく、プラス極の近くで非常にカーブしている。

この左右対称の円錐は、放射状の宇宙に属している。

ダイナミックな赤道は全て放射状である、そして、

左右対称の円錐の全ての力線はダイナミックな赤道の

絶えず変わるポテンシャルを反映していつも変化している。

p235

図 23 は球を作り上げイリュージョンを引き起こし、重い物体を地球に放射状に引きつけ、希薄な物質を放射状に分離する原則を示す。

線 AB は、静的赤道の湾曲を表し、ダイナミックな赤道の放射圏がプラスとマイナスの終わりで円錐に広がる原因となる。

放射性圧力の外部への推進力は、静的赤道 (AB) の湾曲にそって円錐の底辺をカーブさせる。

図 24 は鋼の棒のまわりにワイヤーをコイル状に密に巻きつけることによって、宇宙の電氣的な 2 つの対立する圧力条件で分割された棒磁石となり、

極に電氣的なプラスとマイナスの 2 つの対立した強い渦をつくる。

等しい重さの 2 本の釘は、これら 2 つの極で吊り上げられる。

だがこの釘を拾うのは磁気ではない。

これをピックアップするのは電気の渦である、なぜならば、

たとえ電氣的に通電したワイヤーを除去したとしても、

電気の渦があればそのスチールの棒に効果を発生させる。

235

p236

図 24 等量の交換

図 25 非等量の間での相互交換

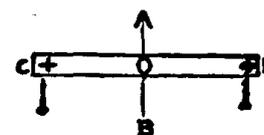


Fig. 24
Equal interchange

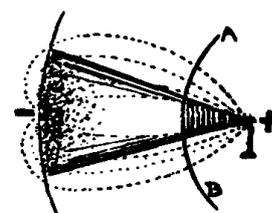
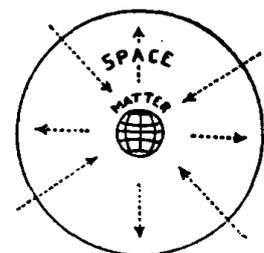


Fig. 25 A & B
Interchange between un-
equal volumes

図 26

図 27 物質は波動の対立する極の間で形成される。

釘を持ち上げるのは静寂な磁気光の極ではなく、電気の渦の渦巻き運動である。

棒磁石の一端がもし大きくなれば、円錐になる。

図 25 のように、2 つの対立した状況に分割されバランスを生み出そうとしているが、比較すると片方の端末はよりボリュームが大きく、

プラスの持ち上げる釘をマイナスは細かい粉にしないと持ち上げられず、マイナスの方が、ボリュームが大きい。

マイナスの終端は、トータルでは同じ重さのものを持ち上げるが、釘を粉にした分割した全ボリュームは、片方より大きなものになる。

物質と空間の関係にこの原則が適用される前に、

地球が磁石だという一般的な印象を訂正することが必要である。

図 24 の棒磁石についていえば、その一つの極性は、重力を表すと考えることも可能だ。

これに対して、地球の中心は重力だとも表現できる。(図 26)、

(図 27)、地球の全ての物質は磁気ギャップの間の波で作り上げられる。マイナスとプラスの端に 2 つの棒磁石を置くと、2 つの端の間に我々が重心と言う静止点が存在する。

鉄の束がこのギャップの間に置かれると、地球の重力に似た状態がみられる。

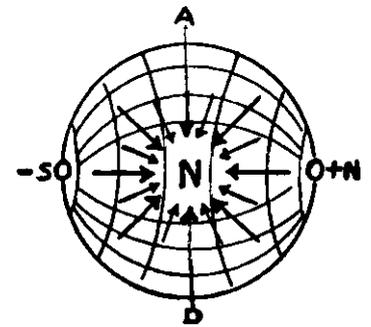


Fig. 26

P237

重力の終わる中心から放射が始まる。

地球上の重い物体のように、釘はどんな方向でもその中心に向かって落ち、コンパスの針は極の方へ広がる力線の渦巻に従う。

バッテリーの中のプラスとマイナスの 2 つのセルと棒磁石の極性と、物体と空間の関係は、全く同じものではないが相似のものとして類推できる。

図 28 棒磁石は扇形に広がり円錐になる。

プラスの先端が引きつける固体の重量と、マイナスの先端が引きつける広がったボリューム量とは明確に区別されねばならない。

電気バッテリーの対立する 2 つのセル間の圧力の差と、物質と空間が作り出すポテンシャルの差は、ボリュームの差において等しいので、同じものと考えられる。

図 28 ポテンシャルの増加と減少で湾曲が増大する

宇宙の物質と空間は明確に 2 つが対立し、バッテリーとなっている。

互いのポテンシャルの上下の対立はそれほど激しく、結果として、高いポテンシャルの圧縮された状態の方へ「落ち」、低いポテンシャルの拡散された条件の方へ「落ちる」前に、固体は、蒸気とガスに分割されなければならない

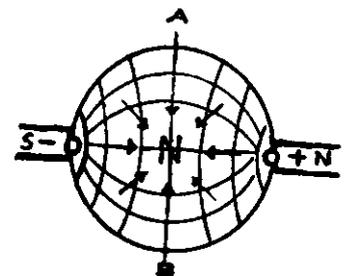


Fig. 27

Matter is formed between opposite poles in waves

共に圧縮された高いポテンシャルがあるので、鉄の固体の棒は地球の方へ放射状に落ちる。

p238

蒸発するほど十分に分離されるならば、同じ鉄の棒は天空の方へ放射状に落ちる。

重力と放射は、対立するほど違っている圧力条件によって、同じものが違うあらわれ方になる。

あらゆるものをつくる圧力状況の違いによっている。

すべてのものは、ポテンシャルを上げて圧縮するか、ポテンシャルを下げて放散することができる。

状態ごとで異なるバランスを見つけなければいけない。

圧縮された状態を拡散された状態に変えるには状態に合うバランスを見つけなければならない

このバランスを見付けだそうとすることが、二方向の運動の唯一の原因である。

すべてのポテンシャルは、宇宙で釣り合う潜在的な位置を持つ。

あらゆるものがつくられる時、そのポテンシャルに釣り合う位置を見つけたいという願望があり、動くのを妨げるような制止も重さとして計られる。

物質と空間で構成される宇宙の放射の原因であるアンバランスな、2つの対立した圧力が、ボリュームとポテンシャルの両方を条件づける。

宇宙のパルスの原因と、あらゆるものをつくり、生命に動機を与える呼吸が、この不等式に存在する。全ての創造物は、あたかも有機的な「生命」がパルスし、呼吸するようにパルスし、呼吸するが、それは生命でなく、単なる運動である。

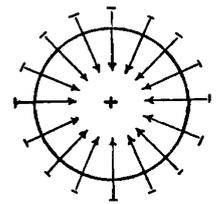


Fig. 29
North

THE TWO OPPOSITE ELECTRIC DIRECTIONS

2つの対立する電気的方向

宇宙は、二重の静的磁気の現実的宇宙と静的宇宙から 90 度に広がるダイナミックな電気的な双方向の放射状の、イリュージョンの宇宙で出来ている。

ダイナミックな電気的な宇宙は、-磁気光の静かな点から、磁気光の静かな面までの、内部と、外部への、2方向に放射状に存在する。

磁気波動フィールドの中の全ての運動は、創造主によって制御される。

(図 29、30)「保持するために、私はこれら全てのものの中におり、中心にいる、そして、全てのものなかにいないで彼らを制御している。

「神のイリアッドより」

内部へ向かって放射状の方向は、光波をより粗雑な周波数に、ボリュームをより少なく、ポテンシャルを増大させる、圧縮の方向であり、N 極にむけ、重力として圧縮する。

外部への放射状の方向は、光波をより細密な周波数 (図 31) にし、より大きなボリュームに拡散し、ポテンシャルを減少させ、S 極へむけて拡張的發展させる放射する方向である。

図 29 N 極へ、

図 30 S 極への

p240

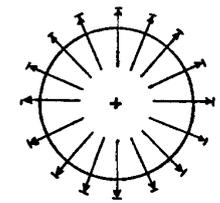


Fig. 30
South

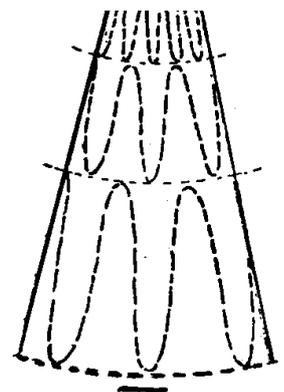


Fig. 31
The division and multiplication principle

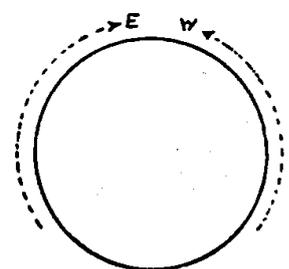


Fig. 32

図 31 縮小と増大の原理

図 32

静的宇宙の 2 つの方向は東と西である。これらは球形であるので静的である。

例えば地球または太陽などの惑星の輪郭、または浮いている雲の軌道のように変化しない等ポテンシャルの圧力でカーブする平面になる。

東と西は、お互いに対立しない。

各々は、ポテンシャルの変化なしで自身の出発点に回帰する。

(図 32) 北と南は、これに反して、直径に沿って互いに対立する。

これらは、絶えず変化する。

これらは反対方向に向かう。そして、対立する螺旋形の通路をとおって互いを通り抜ける。

互いを交換しつつ、通過する；

互いの交換を通して、他を無効にする。

球面の東西の面は、光波の軸を作り、ダイナミックな宇宙は、この軸から 90 度の振幅で放射状にジャイロスコープ状の波を広げ、そのジャイロスコープの圧力の高さの度合で、様々なオクターブの物質の元素が、形成される。

球形の東西の面は、低いポテンシャルの光波を高いポテンシャルに圧縮し、空間のガスを固体に発展させ、同時に、地球の固体の高いポテンシャルを低いポテンシャルに放出させ、重力をカーブさせる波動レバーの支点である。

(図 34)

THIS CURVED ELECTRIC UNIVERSE

図 35 光は暗黒から、暗黒は光から

白熱の太陽の光は黒く冷えた暗黒から生まれ、

そして、冷えた暗黒の空間は白熱の太陽から生まれる。

光のない 2 本の暗黒の川が静かな中心の極へ求心的に流れ、太陽が発生し、暗黒は白熱化する。

逆に、太陽の赤道から、2 本の遠心的な白熱の白い光の川が流れ、暗黒の空間に、放射される。

(図 35)

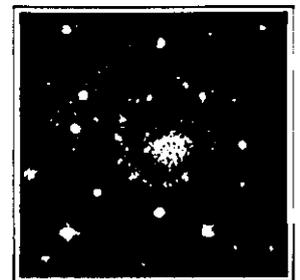


Fig. 33

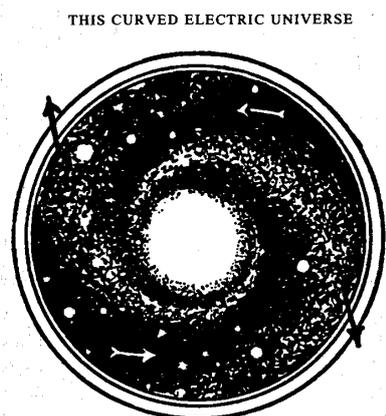


Fig. 35
Light comes from darkness and darkness from light

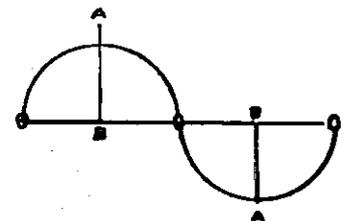


Fig. 34

p243

このように、2 対の互いに交替する対立で作り上げられる螺旋形の星雲に全部で 4 本の枝が、生まれる。2 本の黒い枝は、重力に、2 つの白光は空無に属している。

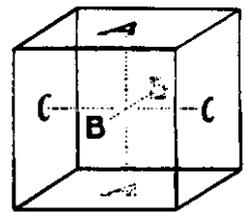


Fig. 40
The six wave field boundary planes



Fig. 41
The universe of projected motion

(図 36、37、38)

この電氣的な宇宙は、螺旋形にカーブする運動体である。
運動が終わる所で、湾曲は終わる。
波動フィールド境界面の結晶の裂け目は、個々の結晶形を分割する。
無、の静寂があるために運動はその平面を通り抜けることができない。

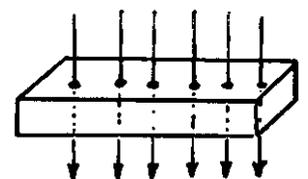


Fig. 42
Light rays are parallel when passing through planes of zero curvature

全ての波動フィールドの運動は、境界面での
拡張の反射によって繰り返される。

互いに反対の圧力条件で湾曲し、各々の力はこの通過で
曲がって表現されなければならない。

対立が開始し、終わると、同時に、運動と湾曲も開始し、終わる。

(図 39 のゼロの位置)

各波フィールドは、別々の映写機で、それ自身のカーブする映像宇宙を、
ゼロのスクリーンの空間に自己を正確に、二重に投影するように見える。

(図 39 での A の位置)。中心にある白熱の光の球は、自己の欲求の形を投影し描く。

(図 38 をもう一度見よ)

図 38 4つの光の川

図 39

O に位置する面は静止光の鏡であり

A に位置する面はスクリーンとして光の運動を投影する

p244

図 40、6つのフィールドの境界面

図 41 運動の投影され宇宙

図 42

0 湾曲の平面を通り抜けるとき光線は平行である。

このカーブする宇宙は光のレンズと鏡から成り、無数の形に反射して、
カーブして曲がり、集中し、光が白熱化する。

無数の波フィールドの鏡面と空間のレンズでどんな動きも至る所で繰り返さ
れる。

(図 40、41)

地球と太陽などの集中した球は、等しい圧力の光の層に囲まれている。

この中で雲は、地球の回りに浮く。

雲が地球と平行のカーブで浮くという理由は、

地球のカーブが球形にカーブした等ポテンシャル圧力面のためである。

光をカーブさせる圧力は、光を放射状に増大し、減少させるレンズの働きを
する。

空間は光のレンズであり、カーブする平面を通り抜ける光線が凸面方向の
ときは、1 点に集中し、凹方向に通る抜けるときは放散する。

(図 42、43) 重力と放射は、この事実によって説明される。

この事実のため、地球の方へ落ちるあらゆる物体は、中心にむかって放射状
に落ちる。

この重力に釣り合い、まっすぐに立つ 2 人の人の足と頭を通して引かれる線
は、

互いに平行ではない。 p 245

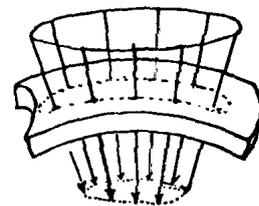


Fig. 43
Light rays are radial
when projected through
spherical planes



Fig. 44
No two vertical lines are
parallel in this radial
universe
AA static equator

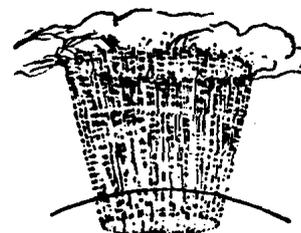


Fig. 45
Rain falling vertically
forms cones

どちらの半球でも立っている 2 人の人は、地球の中心の頂点と天空の間で引かれる線は円錐をつくる。雲から垂直に降る雨は、円錐形に降る。

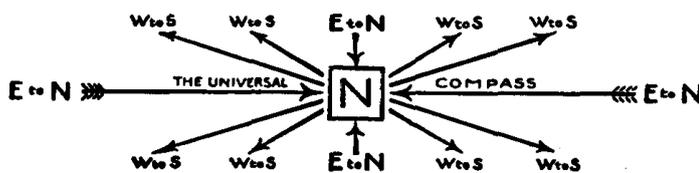
円錐の雲の底辺は、(図 44、45) 地球の上の円錐部分の測定値より大きい。
地球を囲む光のレンズの圧力の増加のため、雨の電位は落ちるとき増加する。
同じ理由で、彼が山を登ると減り、下ったとき重さが増える。

登ると、ボリュームが減り、下ると増えるように、光のレンズはそのボリュームを増やすことによって(放散によって)そのポテンシャルを減少させる。

光波の軸の縮小または拡大による湾曲は、ゼロ湾曲面間の圧力の全ての原因である；

その面で湾曲が終わる時、物質の全てのパターン；

(例えば密度、希薄)の属性を全て無くさせ、波動フィールドの境界の休止点で他の、もろさ、伝導率などの無数の効果も、無効にされ、螺旋状に循環する運動が静止する。



THE SPIRAL IN NATURE

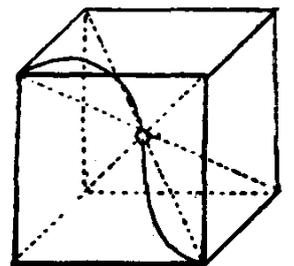


Fig. 47
The six outer mirrors of gravitation

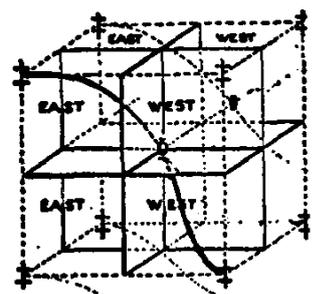


Fig. 48
The six inner mirrors of radiation

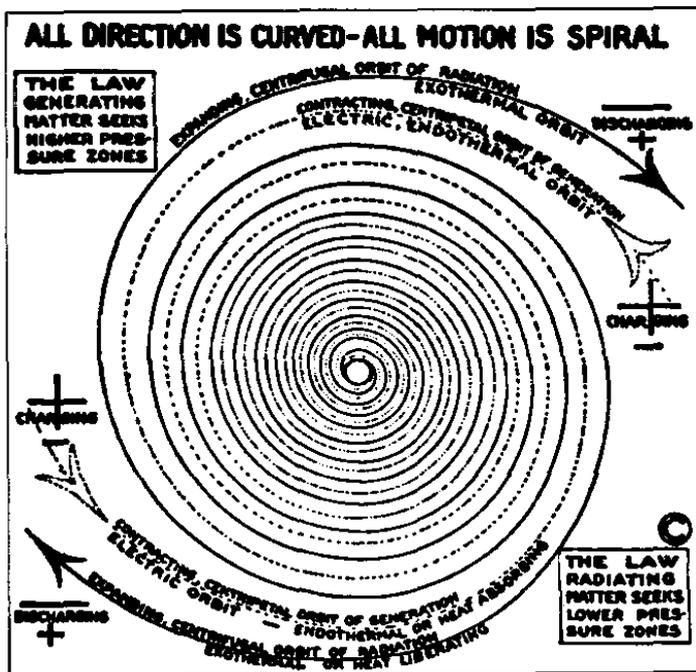


Fig. 46

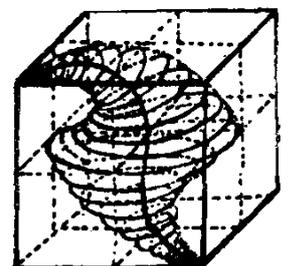


Fig. 49
Wave spirals on their wave shaft

p246

図 43 球面状に湾曲した面を通して投影されて光は放射される

図 44 放射宇宙では 視覚的線は平行ではない。A から A は静的赤道である

図 45 降る雨は、視覚的には円錐になる

THE SPIRAL IN NATURE

自然の中の螺旋

波動フィールドの中の、求心力をもつ光の波の螺旋が、球になると螺旋運動が中止する。

遠心力の螺旋は、球を立方体にほどくと、螺旋運動は中止する。

図 46 全ての方向はカーブし、全ての運動は渦を巻く

p247

求心力と遠心力の螺旋は、電氣的極性の仲間である。

この交換による生成は、全ての形をつくり、同様に無にする。

(図 46)

求心力の螺旋は、陽電気を帯びている。

内部への光は球を白熱状態にする。

これらは、形を無化し再保持する父の光である。

この半サイクルが開始し、波動フィールドが終わる境界面は球の中心である。

図 47 は重力の光は極性を通して求心的に中へ向かい 6 つの鏡像面で、反射する図である。

遠心力の螺旋は、否定電子である。

これは、冷却空間の闇に白熱の球の光をほどく。

これは、形を無にする母の光である。

これらは、球の休止点である中心で半サイクルを開始し、

波動フィールドが再投影される鏡面で、終える。

図 48 赤道から外に遠心的に光を放射し投影する 6 つの鏡面。

図 49 は、光が外部と内部へ対立する状態で互いを通しての二方向に

投影し、空間のスクリーンに位置と運動、状況と時間の変化の、イリュージョンを引き起こす。(また、図 39 を見る)

球と球形のシステムは、炭素のように、求心的で、遠心的な螺旋が出会って生まれる。

図 47 重力の外部の 6 つの鏡

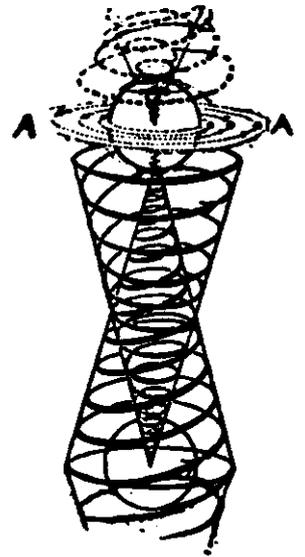


Fig. 50
AA Birth of electronic systems

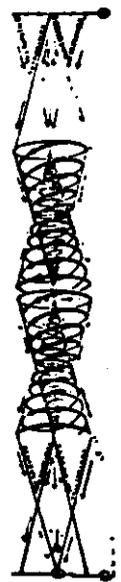


Fig. 51
Spiral Mates. Units of electric current

図 48 は放射の、内部の 6 つの鏡

図 49 スパイラルな波のシャフト

p248

図 50 A から A で 電氣的なシステムの誕生

図 51 対立する螺旋の一組 電流の単位

物質は、その出生の位置のポテンシャルを記録している。

その理由で、その物質のシステムの全ての単位と共に、

その物質の波動フィールドと同じポテンシャル軌道の位置を占める。

力で満たされたワイヤー (図 50) の、電子回路のまわりで電流の、
ループが運ばれることはよく知られている。

図 51、52 と 53 は、A から A で形をなす電氣的なシステムを図解する。

結晶の形が完全立方体である時、求心的螺旋は完全な球である。

螺旋と結晶は、球と立方体が一致したとき、互いの取消しによって個性は失われる。

独立と多様性を明かにする目的で、形体と個性が与えられる。

独立と多様性と個性は、球と立方体が一致するとき無効になる。

あらゆるものの個性は、非保持と再保持の瞬間の記録である。

それは、宇宙の創造的な表現への欲求の果実である。

開始し、終わる各サイクルで、同じサイクルが、繰り返され、

完成し無効にされるまで、このサイクルが続く。

二方向の条件付きの螺旋は、全ての天地創造の完全な縮小版である。

これらは、この条件で全ての物体を条件づける。

これらは、心の知の静寂で、心の想像と再保持の形式を動かし、

再び全ての考えを、心の知の静寂から、表明する。

これらは、光の縞模様の形を混交させ、円錐の中心に円錐の軸があり、

すべての螺旋形のペアの中心にある静かな光は、模様をついた形を記録しながら心の欲望を成し遂げる電氣的な活動体である。

両方の螺旋の中心にある 1 本の軸は、宇宙のダイナミックに回転する回転軸である。全ての運動は中心軸で回転し、全ての軸は球の中心を流れ通る二方向の拡張点上にある。

運動の全ての効果をコントロールするときによく知られている波線は、この効果を記録する。

人は、その波線を記録するが、それが創造主によって広がったパワーであるという事実と欲求のパワーの計測であることを知らない。

どんな機械的プロセス、例えばハーブの弦の振動の波動、エンジンのパルス、人の心臓の心拍波動曲線、または地震の地震計で記録されるパターンなどの波線は、その静的赤道から借りたエネルギー量を表す記録である。(図 54、55、56、57、58)

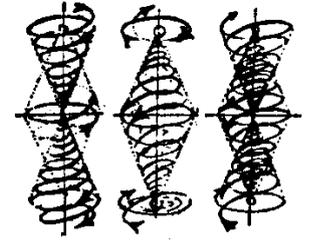


Fig. 52
Atomic systems forming

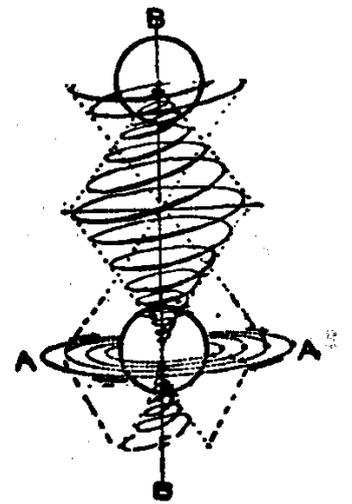


Fig. 53
AA Atomic systems forming
BB Wave shaft

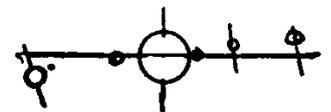


Fig. 54

図 52 原子の形成システム

図 53 A から A は原子的なシステム作り上げる B から B は波動のシャフト

図 54

p250

図 55 A と B は地球と月のシャフト

図 56 図 57 A はエネルギーの借り B はその反復

図 58 の A は信用 B は借り入れである

波の軸は波で乱れた海の表面の、
 縦断面に引かれた線であり、そこで、水と空は会う。
 波の静止軸のまわりの、螺旋形の波の全ての運動は、
 欲求の形とパターンの混交になる。
 全ての螺旋形の形は、驚くべき種類の個性の形とパターンを持つ。(図 59)
 内から外へ、外から内へと、すべての形成された形を反転させる回転は、
 段階的に二重に保持し再保持される自然の原則にもとづく。
 この過程は中心の磁気光の軸で動機づけられた螺旋形のペアで制御される。
 対立する螺旋のペアは、遠心的に徐々に広がり
 静的赤道の平面に出会って半サイクルの展開を完了する。
 そのあとこれらは、対立したものを結合し引き締めて、もうひとつの半サイ
 クルを完了する。
 全ての運動の間、方向の反転はない。
 時計回りの螺旋は、常に反時計回りであり、円錐の頂点への求心的運動が、
 円錐の基礎への遠心的運動になる。
 反時計回りの回転軸と同じ軸で回転する、反対のペアは互いを通しなが
 ら投影する。
 放出と凝縮 内部から外へ、外部から内部へという性質をもつ自然の原則
 は極で物質を形成させ、赤道で物質の崩壊を引き起こす (図 60)。
 回転軸のまわりの 1 対の螺旋の収縮によって、極で球に巻かれ物質として
 統合され、対立するペアは拡大し赤道で崩壊しほどかれる。
 光波の螺旋のペアは球に流れ込み、球に穴があくまで続き、リングが作られ、遠心力の増大と対立
 する螺旋の拡大はその運動を助ける。
 球における「死」の半サイクルがリングである。

リングは球への巻き戻し過程と空間を取り巻く点の再凝縮でうまれる。

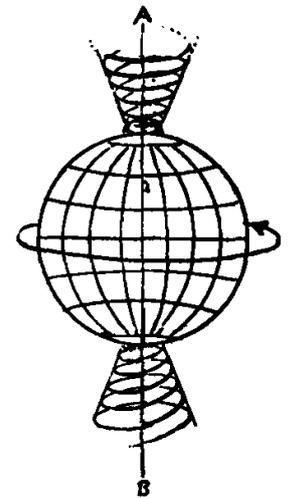


Fig. 55
AB—The shaft of earth and moon

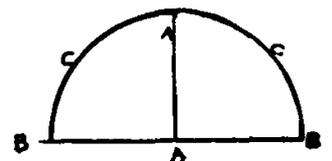


Fig. 56
A

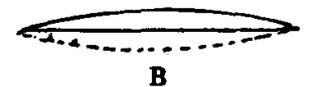


Fig. 57
A—The measure of energy borrowed. B—Its repetition

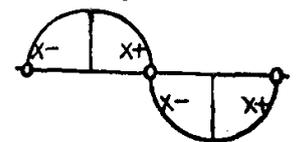


Fig. 58
A—is a credit. B—is an equal debit

琴座（図 61）の威厳ある環状星雲は、自然の崩壊プロセスの顕著な例である。リングは「死」の半サイクルで、その中心で新しく作り上げられた太陽は「生」の半サイクルである。
 新しい物体は古いものから誕生し、それは天空に拡大する。
 天空は、新しい物体であふれているように見える

図 59 エネルギーを波動軸から借りる多くのパターン

図 60 螺旋形の運動方向は逆転しない

p252

図 61 琴座環状星雲

図 62 Owl 星雲。

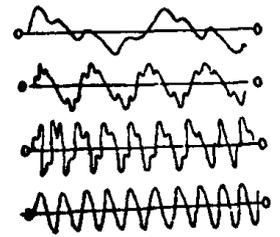


Fig. 59
 Various patterns of wave shafts recording borrowed energy

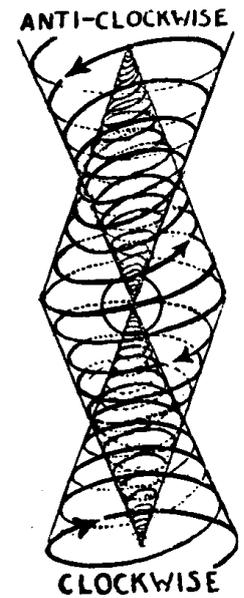


Fig. 60
 Directions of spiral



Fig. 61
 Lyra ring nebula

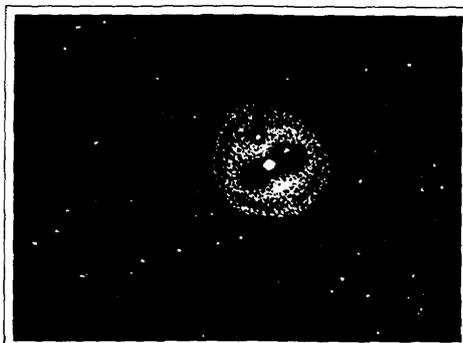


Fig. 62
 Owl nebula

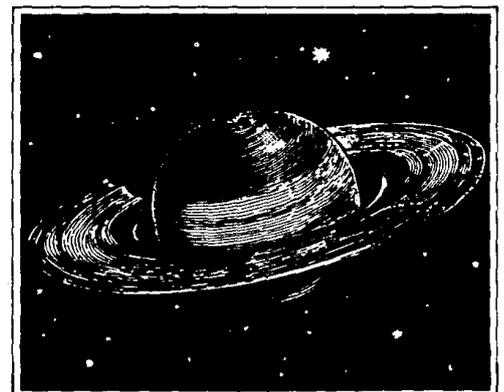


Fig. 63

p253

Own Nebula は、この原則による 2 つのリングと 2 つの星の再生を示している。

他のリングが月になった時のように、土星のリングも、月になる。(図 62)

外惑星の全てがそうであるように、月は地球のリングからその海を吸収して球を大きくし、回転を速めて、生まれた。

(図 63)

p254

図 63 今でも木星は、そのリングを捨てベルトを月に発展させようとしている。

この太陽系の中の全てのものと同様に、これらの月は最後には彗星になって、結局太陽に飛び込む。

図 64 は月が太陽の回転軸のまわりで、再び回転を開始するために、自身の母軸との結合から解放され、ほどかれるプロセスを図示している。

p 255

放射による太陽と惑星の崩壊させる力は、これらの極を平面にさせようとする力が付随する。

球は、偏球する prollating 結球力によって生まれる。

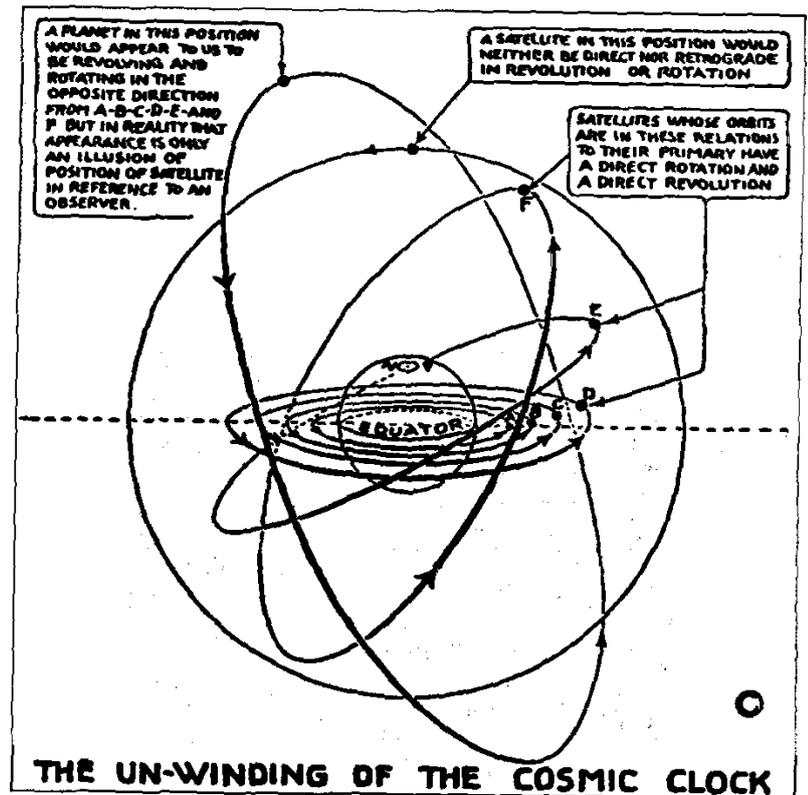


Fig. 64

図 64 ほどかれる過程を表す(アンワインディング)宇宙時計

そして、oblatting 放散する放出力によって、出る。

回転軸周辺の回転速度の増加は、この現象の原因である。

彼らが太陽の母軸に近づくので、地球型惑星は非常にゆっくり自転軸を中心に回転するが、太陽の軌道では非常に速く回転する。

水星、我々自身の月とフォボス(火星の月)は、速く回転しなければならないほど、母の軸に近い。

(図 65)

同じ面を、常に主軸に向けている。

外側の惑星は太陽の母軸の影響から逃げ

1日は目立って短くなり、1年の長さは延び、これらの太陽に面するところは絶えず変わっている。

図 64

図 38 自然の質量の中のエネルギー集中と放散の方法

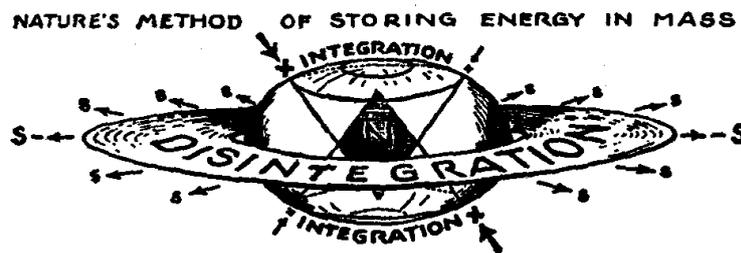


Fig. 38
As poles flatten equators lengthen

255

図 38 極は平らにつぶれ、赤道は長くなる、

p255

我々の地球でシャフトのまわりで螺旋が縮まると、サイクロン、熱帯低気圧と竜巻は発達する

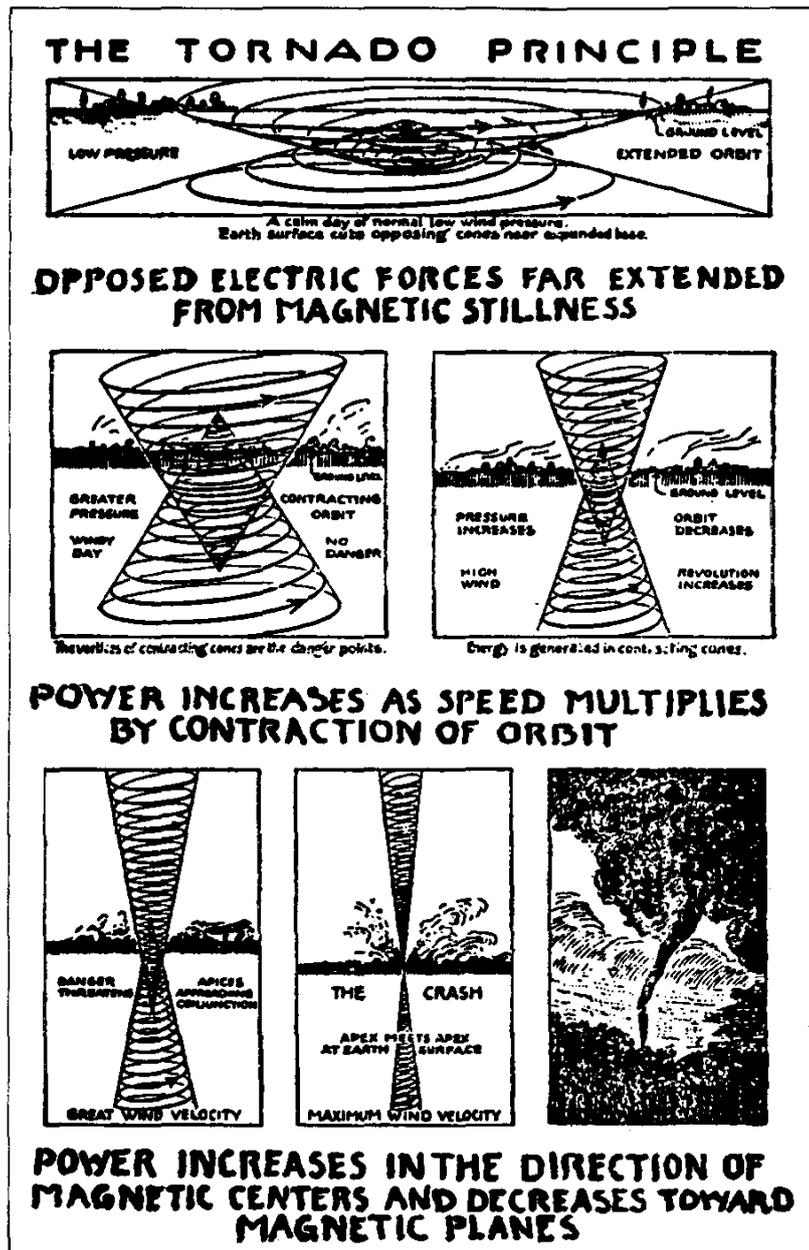


Fig. 66

地球の表面への螺旋の角度が取りに足りないほど小さく、基礎が広い時は、静けさと平和がある；
 しかし、静寂な磁気軸を中心に地球表面へ90度で鉛筆のように細くなる時、このまわりで猛烈に速
 度を上げ、計り知れない損害をひきおこす。：図 66

宇宙の振り子

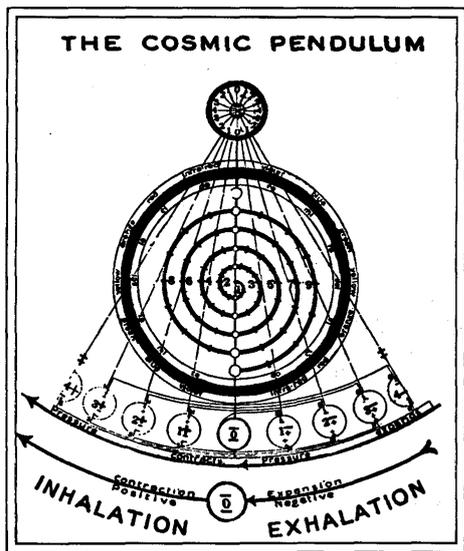


Fig. 67

in Fig. 68:

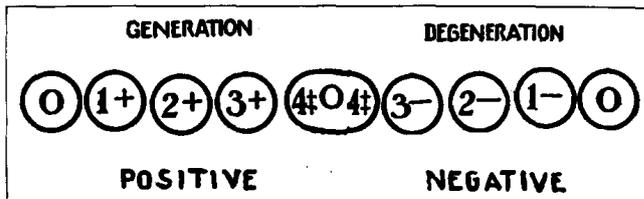
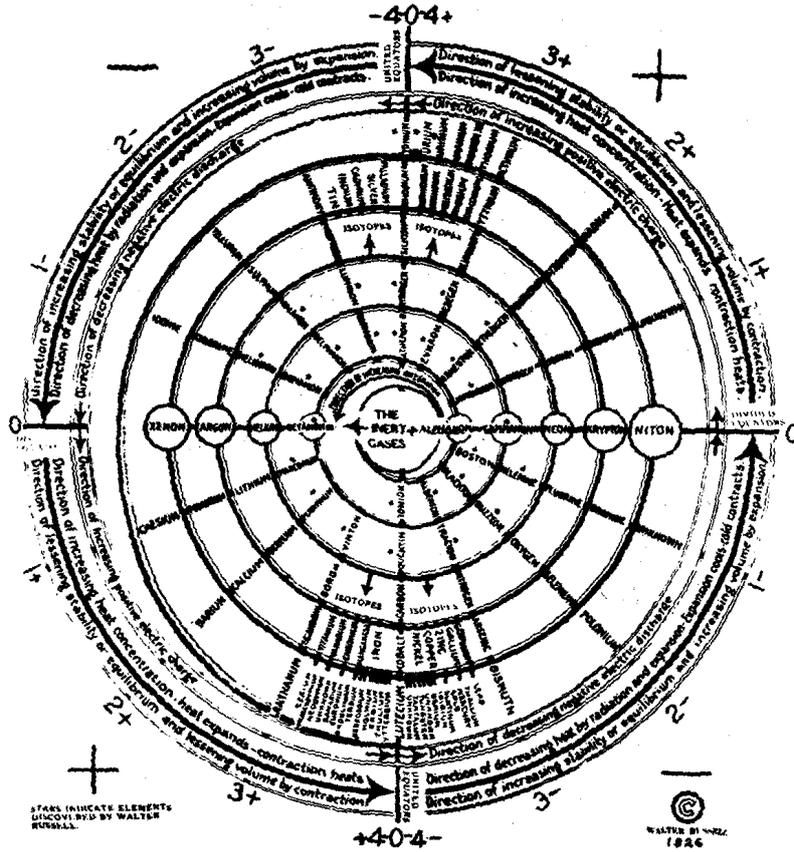


Fig. 68

Two-way journey from zero—through zero—to zero

Periodicity is a characteristic of all phenomena of nature



ラッセルの画期的な元素周期律表

星印☆は、ウォルター・ラッセルが発見した元素です。

1 st <u>OCTAVE</u>	☆TOMION ☆ALBERTON アルバートン ☆BLACTON ☆BOSTON ☆ALPHANON ☆JAMEARNON ☆ERNESTON ☆EYKAON	THE BEGINNIN G	
2 st <u>OCTAVE</u>	☆ATHENON ☆BARNARDON ☆DELPHANON ☆ROMANON ☆BETANON ☆MARCONIUM ☆*PENRYNIUM ☆VINTON		
3 st <u>OCTAVE</u>	☆OUENTN ☆TRACION ☆RUZZEON ☆HELENINE ☆GAMMANON ☆CARBOGEN ☆ETHLOGEN DEUTERIUMと新たに名づけられた ☆BEBEGEN TRITIUMと新たに名づけられた		
4 st <u>OCTAVE</u>	HYDROGEN 水素、 ☆LUMINON ☆HALANON ☆HIELIONON HELIUM ヘリウム +1 LITHIUM リチウム +2 BERYUUM ベリウム +3 BORON ホウ素		
5 st <u>OCTAVE</u>	CARBON 炭素 -3 NITROGEN 窒素		

	<p>-2 OXYGEN 酸素</p> <p>-1 FLUORINE フッ素</p> <p>NEON</p> <p>-SODIUM ソジウム</p> <p>MAGNESIUM マグネシウム</p> <p>ALUMINUM アルミニウム</p>		
6 st OCTAVE	<p>SILICON シリコン</p> <p>PHOSPHORUS リン</p> <p>SULPHUR 硫黄</p> <p>CHLORINE 塩素</p> <p>ARGON アルゴン</p> <p>POTASSIUM カリウム</p> <p>CALCIUM カルシウム</p> <p>SCANDIUM スカンジウム</p>		
	<p>TITANIUM チタン</p> <p>VANADIUM バナジウム</p> <p>CHROMIUM クロミウム</p> <p>MANGANESE マンガン</p> <p>IRON 鉄</p>	5つの同位元素	
7 st OCTAVE	<p>COBALT コバルト</p>		
	<p>NICKLE ニッケル</p> <p>COPPER 銅</p> <p>ZINC 亜鉛</p> <p>GALLIUM ガリウム</p> <p>GERMANIUM ゲルマニウム</p>	5つの同位元素	
	<p>ARSENI</p> <p>SELENIUM セレン</p> <p>BROMIN</p> <p>KRYPTON クリプトン</p> <p>RUBIDIUM ルビジウム</p> <p>STRONTIUM ストロンチウム</p> <p>YTRIUM イットリウム</p>		
	<p>ZIRCONIUM ジルコニウム</p> <p>NIOBIUM ニジウム</p> <p>MOLYBDENUM モリブデン</p> <p>UNKNOWN</p> <p>RUTHENIUM ランタン</p>	同位元素	
8 st	RHODIUM		

<u>OCTAVE</u>	PALLADIUM パラジウム SILVER 銀 CADMIUM カドミウム INDIUM インジウム TIN	同位元素	
	ANTIMONY アンティモニー TELLURIUM テルル IODINE ヨウ素 XENON キセノン CAESIUM セシウム BARIUM バリウム LANTHANUM ランタン		
	CERIUM セリウム PRASEODYMIUM プラセオジミウム NEODYMIUM ネオジム UNKNOWN SAMARIUM サマリウム EUROPIUM ユロピウム GADOLINIUM ガドリニウム TERBIUM テルビウム DISBROSSIUM HOLMIUM ホルミウム ERBIUM エルビウム THULIUM ツリウム YTTERBIUM イットリビウム	13の同位元素	
9 st <u>OCTAVE</u>	LUTECIUM ルテチウム UNKNOWN TANTALUM タンタル TUNGSTEN ; タングステン UNKNOWN OSMIUM オスミウム IRIDIUM イリジウム PLATINUM プラチナ GOLD 金 MERCURY 水銀 THALLIUM ツリウム LEAD	13の同位元素	

	<p>BISMUTH ビスマス</p> <p>POLONIUM ポロニウム</p> <p>UNKNOWN</p> <p>NITON ニトン</p> <p>UNKNOWN</p> <p>RADIUM ラジウム</p> <p>ACTINIUM アクチニウム</p>		
	<p>THORIUM タリウム</p> <p>URANIUM XII ウランXII</p> <p>URANIUM ウラン</p> <p>☆ URIDIUM <u>ネプチウムと新たに名づけられた</u></p> <p>☆ URIUM <u>プルトニウムと新たに名づけられた</u></p> <p>☆ TOMION</p>	<p>ウランの 同位元素</p> <p>TOMION が最後</p>	
	<p>THE END THE BEG I N I N G</p>		

9 オクターブサイクルのまとめ

内部のガス 9

元素 63

同位元素 49

計 121

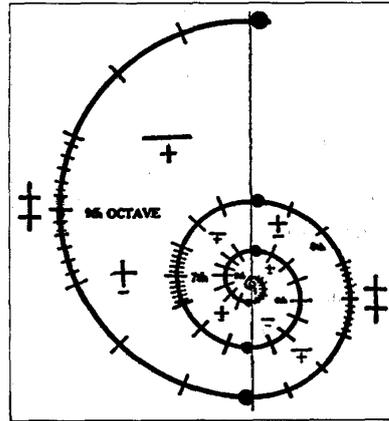


Fig. 71
The universal nine octave cycle

THIS MAGNETIC.

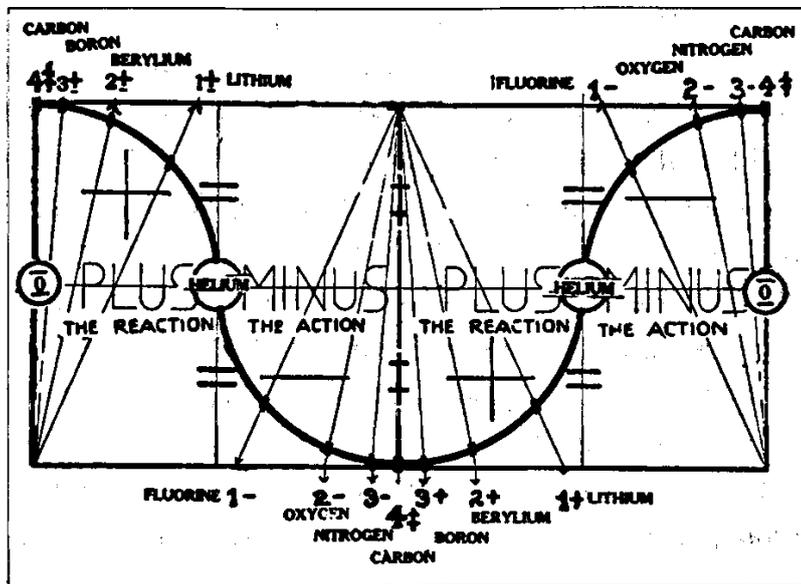


Fig. 72
Octave pressure relations

宇宙的オクターブ

THE UNIVERSAL OCTAVE

p258

宇宙の鼓動の 4 対の対立している動作と反応は、休止点のゼロから始まって、再びゼロにもどり、その最低値からその最大値にむかって螺旋形になる。

これらは対照的な 4 つの相互交換の電気波動のペアである、宇宙の螺旋形のオクターブの波は、ダイナミックな宇宙の効果の原因である静的宇宙からうまれる。(図 67) (図 67)

オクターブの波動は全ての運動を支配し決定する、そして、宇宙の波の出生位置は次の図 68 の通りである：

ジェネレーション 成長 ポジティブ

図 68 ゼロからゼロを通過してゼロにいたる 2 方向の運動

ゼロから 4 は螺旋の頂点の方へ向かう、求心的方向である。高いポテンシャル密度と重力と白熱に至る方向である。

4 からゼロは遠心的な螺旋の底辺への流れを意味し、低いポテンシャルと低い圧力、放射と空虚へ空間の冷却化と暗黒にいたる方向である。

p259

オクターブが 1 から 8 でなく 1 から 4 としか数えない理由は、オクターブの各々の圧力が、正の 1 から 4 がマイナスの 4 から 1とバランスをとって対立し、圧力の信用と借方の関係がうまれるからである。

『螺旋形の正反対のペアとして生まれる物質の元素は、音と同じ構造を持ち、音楽のトーンは、オクターブに分けられた音の波を持つ。

全ての波動は、対立する 4 つの、つまり対になった 8 つの音の波で表される。

中間のペアは、表面上一つに数える。

オクターブは、この理由のために 7 として通常表される。

オクターブは、規則正しい一連のハーモニックな音の連なりである。

光と空間の圧力をリズムカルに減少、増大させることでトーンは変化し、各オクターブの音の波の運動は数学的な精度をもって間隔をあける。

1 つの運動効果にあてはまる法則は、音の波動だけでなく、電磁波、カラースペクトルなどの物質の元素のオクターブの全てに適用される。

運動の領域では、永久の不変性、または持続性はない。

すべては永遠に移行の状態にある。その振動周波数が増加するか減少するかで、波動の位置と条件が変わる。

全てのオクターブの基礎である、休止点の基調から思考が生まれ、オクターブの音の振動がうまれる。

p261

全ての音のオクターブ変化は、音楽のオクターブの波の基調である、磁気静寂の支点の、基調波の周波数とボリュームの変化として数学的に計算される。

音が鳴っているかどうかに関係なく、その基調を常に人は意識する。

その基調は、オクターブのバランスの中心である。

全てのトーンは、いつでもバランスから外れたところにあり、永遠にバランスを求める。

心は物質=0 の支点を意識し、運動の終わる休止点の基調は避けられず、電氣的にもこの休止点から切り離すことができない。

たとえどんな装置が長さの違う周波数のオクターブのトーンを響かせても、螺旋形の始めと終わりのペアが、調子を整えトーンを制御し整然とした秩序をうむ。

同様に、バイオリンの弦、炭素の波動フィールド、スペクトルの色の周波数の変化をひき起こす器具などの、唯一のパワーは、オクターブの基調の静寂から借り出された衝動に基づく電気圧力である。

このようにあらゆるオクターブの全てのパワーで、1 つのトーンは他のトーンと対立し、休止平衡状態からの借用が借方に記入される。

この顕著な自然の法則は、必ず心の中で意識され、物質の元素のオクターブの音律から生じる、宇宙の波のメカニズムに適用される。この精度は別の組合せでも、常に同じで、同一の効果が生まれる。

p262

ラッセルの元素周期律表

図 70 ウォルター・ラッセルによって世界に与えられた 2 つのチャート図 1926.4

p263

THE ELEMENTS OF MATTER

物質の元素

自然のどんなものにも、生命と死の 9 つの小さなサイクルが潜んでいるのが不変の特徴である。

P264

図 71 宇宙の 9 つのオクターブサイクル

宇宙のオクターブ、サイクルの完成を、中年の完成された人間とみなす。

この時まで、幼児、子供、若者と生長してきたと考える。この成熟のサイクルを完成し老いをむかえ始めると、徐々に休止点のゼロに *horrowings* 借りの全てを返し、ゼロに復帰し、考えを再表示する原動力を再び借りだす。

自然の小さな 9 つのサイクルから大きなサイクルが生まれると考えられ、自然のすべてのプロセスに、物質の元素の生命と死のサイクルが、明らかに存在する。(図 71)

炭素は、物質のこの特性を単独で表す。

炭素の放出と再保持の展開の中に、元素の全てに存在する 9 つのオクターブがある。

オクターブの前半の 4.5 までの、重力の発生する収縮は、炭素の成熟に至る。

炭素は、最も高い溶点を持つので、全ての他の元素のなかでも後半の放射過程への移行が最も難しい。

4.5 の中間点から後半のオクターブ過程の空虚への放射と発散は、オクターブサイクルの 9 つに分かれた音の終わりで老年の成熟と消滅にいたる。(図 70)

最初のオクターブから始まる圧縮活動は、爆発的な炭素の出生では、内部への光の速度は、1 秒につき 186,400 マイルである。

それは、外部への爆発的な速度の放射性のリアクションでバランスをとる。

運動と湾曲が終わるゼロ点に着く前に、カーブする波動フィールドそれ自体が複写されるようこの速度は、制限される。

p265

図 72 オクターブの圧力関係

炭素は、創造主の計画を成し遂げるために立方体と球の構造体を形成する

炭素は正確な立方体として単独で結晶し、正確な立方体と球の典型である。
他の、立方体として結晶する全ての元素は、炭素のオクターブの拡張である。
このような拡張の全ては、振幅波の 4-0-4 の位置でバランスしている。

炭素にはその前段階の全ての要素があり、ちょうど人の動作の前に全ての反応要素が中にひめられているのと同じだ。

水素は炭素より 1 オクターブ前の典型的なタイプである。
それは炭素の 4-0-4 の 1 オクターブの波の形が、前で、増大した形で存在する。

p266

水素の中にもオクターブの基本的なトーンの全部がある。

これらのうちのいくつかは、最近発見され、同位元素という名前が不当につけられた。

同位元素は、バイオリン奏者が完全なトーンの間で鳴らす中間のトーンである。

炭素のこれまでの命の放出記録をみると、驚くべきことがわかる。

4 番目の水素のオクターブで、融点は、マイナス摂氏 259 度で、圧縮活動と放射が同等に会うこの中間の 4.5 の位置で、自然の蛇行過程は、むちのようにくねる。

この効果は、その 1 オクターブ上の濃度の高い物質である炭素の 3600 度の溶点にジャンプし、ゼロの回転渦を凝縮させる。

自然は、この加速的な動きに釣り合って、氷点下摂氏 210 度でガスとして溶ける炭素の次の元素、窒素に下降する。

この 5 番目のオクターブでの残りの間、ガスの形態の条件は変化しない。

5 番目の炭素のオクターブの宇宙の種は、ヘリウムである。

炭素の次の 6 番目のオクターブはシリコンである。

シリコンの溶点は、この前の段階（5 番目の炭素の 3600 度）の半分より以下の 1420 度に落ちる：。

シリコンのオクターブの宇宙の種は、ネオンである。

炭素を 1 オクターブ通りこして、7 番目のオクターブであるコバルトの 4-0-4 の位置では、どちらの側も 5 つに、合わせて 10 に割かれ、興味深いトーン同位元素に分割される。

(図 70)

p267

この 7 番目の段階で炭素は、多くの活力を失い、コバルト同位元素（前後 5 + 5 の）に分割されて性質を変える。

溶点は 1480 度に落ちる。それは炭素族の 6 番目のシリコンよりすこし高い。

その位置を他の 10 個の同位元素と共有するため、4-0-4 の位置がつくる正確な立方体と球のバランスを失う。

その証拠は、オクターブの正確な立方体・球の位置である 4-0-4 を占めることが不可能なので、コバルト金属の品質に、乱れがおきることにある。

4-0-4 の位置で釣合う、鉄とニッケルのような金属的に対立するペアは、マンガンと銅、chromium クロミウムと亜鉛、ソジウムと塩素などがある。

これらのペアのどれも、例えば鉄錆の中の鉄と酸素、塩化ナトリウムの中のナトリウムと塩素など、塩の中に入った石のように、金属的性質を失う休止点でバランスを見つける；

これらが等しい、同じ力で対立するペアに最も近ければ、これらは三次元システムで結晶する。
ソジウム塩化物は、良い例である。

人は、塩化ナトリウム（普通の食卓塩）、またはナトリウム・ヨウ化物のゆがめられた立方体結晶で
ほぼ正確な立方体を見ることができる。

元素のオクターブの 4-0-4 の位置は、あらゆる動きが終わる半サイクルの休止点であり、同時に他
の半分がはじまる位置でもある。

自然の中の全てのアクションとリアクションが、休止点に回帰して止まる。

p268

更に次の段階の 8 番目のオクターブへ向かうと、炭素はラジウムになり、4-0-4 の振幅位置から 5 つ
上がって、再びもう 5 つ下る。ラジウムは溶点が 1950 度なのでコバルトより活性化している。(図
70)

ラジウム・オクターブの宇宙種は、7 番目にあるクリプトンである。

これらが完全に成熟すると、大きな放射活性力が自然の創造過程でしばしば確認される。

図 73 休止から休止の元素のサイクル

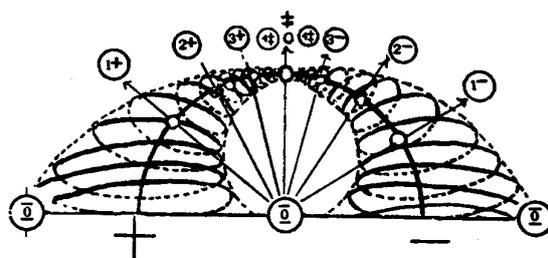


Fig. 73
Cycle of the elements from rest to rest

放射性の死の原則は、圧縮活動の原則と、同じくらい物体を崩壊させるのに不可欠である。反対の
圧縮活動が弱まると、その活性力は、強化される。

銀、ニッケル、銅、タンタル、タングステン、オスミウム、プラチナ、金のような強い活性化した
金属は、炭素の老化と放射へ向かう半サイクルに属している。

9 番目のオクターブにあるタンタルは、融点が摂氏 3400 度に達するものと、200 度の、2 つの対立
した電気的狀態の間にあるため、きわめて濃度の高い放射性金属である。

p269

更に、9 番目のオクターブにある 13 の同位元素の中の 2700 度のオスミウムと、1755 度の溶点の
プラチナがこれに、付け加わる。

炭素の溶点から、窒素のマイナス 210 度の溶点への激しい低下は、この 9 番目のオクターブでの圧
縮反応に対応し釣り合っている。

炭素の老化と、放射性の死の原則は、次の 9 番目のオクターブのルテチウムによって明らかになる。

このオクターブのプラスの半分で、キセノンの次の 3 つの元素（セシウム、バリウム、ランタン）
を通過した後、13 のポイントを通過すると、4-0-4 のバランス位置に到着するが、この 13 の転移で、
まだ知られていない 5 つを含むプラス 13 とマイナス 13 の同位元素が立証される。

プラスの 13 はマイナスの半サイクルにある 13 の元素とバランスをとる。

これらの 13 の同位元素の中の、タングステンはネガティブな活性力をもつ金属で大きな商用的価値がある。

この金属を十分に高い流れで攻め、崩壊し、放出させると、不活性宇宙のガスの種がちょうどオークの木のように原子の宇宙の種を放出する

ルテチウム・オクターブの宇宙の種は、8 番目のキセノンである。

炭素の最後の消滅へのオクターブの宇宙種は、不活性ガス・ニトンに起因する。

過去の種からオクターブが展開され、現在にも未来への種が存在しなければならず、これで再保持が可能になることをしめしている。

最保持の原則は、自然では絶対である。

ラジウムとアクチニウムで全て老化プロセスを完了し、発達する種の全てのサイクルを強硬に完了する。

p270

人はタングステンに適用するような、電気的手段に訴えずに、ラジウムに起こるこの過程を見ることが出来る。

ラジウムの微細な針を蛍光スクリーンの前に置いて、小さな顕微鏡 (spintariscope) でみる。暗闇でレンズを通して見ると、宇宙の種の光線がスクリーンに投影されるので、炭素が変貌しラジウムのオクターブ段階にいたった「宇宙の種」の瀕死のゆっくりした、放射を見ることが出来る。この効果は美しい。ホタルが草原の暗い夜に瞬き、星の多い夜の空に、星が現れては消える、きらめく全てを見るようだ。

炭素が変貌して、Tomium になるまでは、まだ確認されていないが、この炭素が tomium に変貌し到達しようとする動きは tomium の 15 前にあるウランの同位元素のグループで立証される。(図 70)

(ウランの同位元素の最後 tomion の次は 1 番目のオクターブのアルバートンで、ここから 15 番目は 2 番目のオクターブの最後 vinton でここまでを確認されていない tomium としたのだろう。

訳者注)

このグループの中から、原爆に利用されるいくつかは見つけられ、特別に生産された。

これらの同位元素の宇宙の種の放射能は tomion の終わりではほとんど最大に達し、ほぼ光の速度に近づき、速度は 1 秒につき 180,000 マイルになり、再びアルファノンからオクターブが始まる。

P271

THE INERT GASES

内部のガス

全てのものが種から成長するように、物質のエレメントのオクターブは、種から「成長する」。

これらの種から元素が表れた瞬間の、サイクルの初めから終わりまで、絶えざる移行状態にある。

元素は、固定されたものでない。

これらは、光波の圧力条件次第である。

ちょうど動物の王国にいるように、小さい圧力条件の変化で物質の元素は幼少から老年まで絶えず変化する。

不活性ガスは、他のどの元素とも結合しない宇宙の元素である。

これらは、宇宙を構築し記録するシステムを構成する。

これらは、運動が終わり、ゼロに帰るものを取り囲む。

最大の振幅運動まで検証する時、これらは最小限の波動運動を代表する。

これらは物質のオクターブの種である、そして、異なる木が異なる種をもつように、各オクターブは異なる種を持つ。

元素は波である、そして、波は消え、再び現れる。

神の記録システムは、全く動きを記録せずに、反応が出現したり、消えることを許さない。

運動の全ての領域は、不活性ガスに記録される。

宇宙の物質の運動の中で明示される魂は、不活性ガスである。

この中に、形へのパターン化された欲求と表現がある。

p272

宇宙の不活性ガスは、天空の星の間の全ての空間を満たす。

これらはゼロでバランスを取り、お互いの運動領域を絶縁する。

これらは、全ての運動が終わったときに、創造主の欲求パターンに忠実な意志を持ってあらわれる。

これらは、物質とゼロの間に交替する宇宙線をバランスさせる源泉である。

これらは、ゼロの範囲内で、全能の神の創造的な欲求に命を与える宇宙線である。

宇宙のガスは、9つある；

最初と最後の種は1番目のオクターブにある Alphanon アルファノンで、サイクルを開始し、アルファノンでそれを終える。始めと終りは、ない。

宇宙のガスのリストは、次のとおりである：

1	alphanon、アルファノン
2	betanon、
3	gammanon、
4	*helium、
5	*neon
6	*argon
7	*krypton
8	*zenon
9	*niton

スペクトル分析

オクターブのすでに確認されたものは、9のうち5.5までである。

これらは、オクターブの3番目の中の水素から始まって、ウラン・グループの最後の、アクチニウムとタリウムそして tomion という同位元素の終わりまでがすでに確認されている。

見事に分けられた空間の9つのオクターブの中で未確認の部分は、総計で3.5である。

(水素の次の☆LUMINON ☆HALANON ☆HIELIONON までを数えて3.5にする 訳者注)

P273

このオクターブは我々の知覚の範囲を越えているが、認識できないわけではない。

光は世界共通語である。

白熱の状態の光波のスペクトル分析を通して、各元素を分析し、確認できる。

分光器によって、その二方向のサイクルの各段階の構成元素の生活史を作り、プリズムによって光線を分離することが可能である。

各元素は、他のオクターブからの、起源からの、「変身」の物語を語る。

後続する圧力の変化するオクターブのため、オクターブのどんな線も次で繰り返され、位置を移動する。

水素のスペクトルは、圧倒的な赤を示す。

明るい赤い線は、現在のオクターブを示す。

他の赤い線は、過去の下位のオクターブを告げる。

鉄の複雑なスペクトルと比較して、水素の単純な歴史は、ナポレオンの無名時代の若者の履歴のようである。

鉄のスペクトル分析において、鉄属の線は最近までのはるかな歴史を、一目で見ることができる。

これらの線は、鉄の原子が充填され、そして、放出する能力を示す。

p274

鉄属の現在のオクターブ波長 7181.8 は直ちに認識される；

6916.8 は少し前の歴史である、そして、6944.8 はもっとも古い歴史である。

ここに、書いた鉄の波長は最近からより古い歴史で、同属のトーンから、他に属するリストが続く

BELONGING TO IRON 鉄属	RECENT HISTORY 少し前の歴史	REMOTE HISTORY 古い歴史
7181.8	6916.8	6944.8
6495.1	6827.8	6678.1
6380.9	6335.4	6232.8
5905.8	6230.9	6137.8
5862.5	6157.9	6270.4
5859.8	6102.3	6027.2
5816.5	6003.2	6024.2
5658.9	5930.2	5983.1
5555.0	5701.7	5934.8
5041.9	5686.6	5662.7

可視から不可視まで、スペクトルは、数千の線に分割される。各線は、その平面の中で、色あい異なる。

各線は、宇宙が圧力を変えると運動が変化することを証明している。

THIS MAGNETIC-ELECTRIC UNIVERSE

図7 元素と音程の関係

ATOMIC STRUCTURE

原子の構造

p275

元素のトーンと物質のスペクトルの関係は、異なる物質でも変わらない。

これは、光波の異なる圧力条件に起因する。

全て元素の光の単位は、似ており、原因となる

電気圧力によって、内部から外部へ向かう、ゼロからゼロまでの、螺旋形の運動条件が違うのである。

スペクトルの色の階律、または音の階律はジャイロスコープの原則に基づいて整然とした振動波のフィールドの正確な数学的秩序があり、何故元素が数学的に正確なオクターブのトーンの高さになるかは、答がまだわからないミステリーである。

オクターブの8つの元素は、ゼロから4・0・4の中心位置までの、トーンの振動数の上昇過程で全サイクルの半分を終え、新たに開始するために再びゼロへ下降していく。

P276

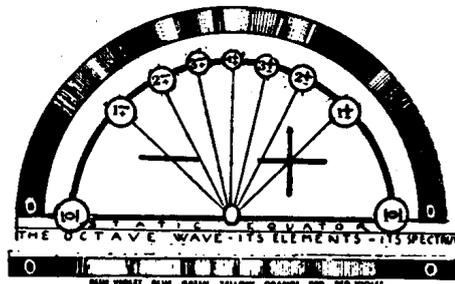


Fig. 74

Relation of tones of the elements to tones of the spectrum

ATOMIC STRUCTURE

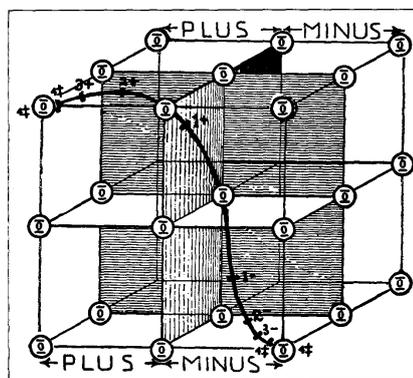


Fig. 75
Locations of elements on wave fields are determined by wave-field mirrors

螺旋形の波動フィールドの振幅が頂点の位置に接近すると、今度は下に反転して螺旋形の底辺への回帰運動が拡大し、より大きな圧力が運動を螺旋形にする。

二方向の螺旋運動の各半サイクルは、静かな光で作られる6つの鏡の間に広がり波動フィールドを形成し、中心の静かな螺旋軸に巻きつく。

p277

図 75 波動フィールドの元素の場所は、波動フィールドの鏡で決定される

これらの鏡の中の3つは小さなアクションであり、他の3は小さなリアクションである。

3つの動きは立方体の内部の交差平面にあり、三つの反応は波動フィールドの境界平面の外部にある。(図 75)、

これら波動フィールドは、ゼロ湾曲面の範囲内で形をうみ、宇宙が螺旋形にカーブする。

光がカーブする面は、光を焦点に屈折させるか、焦点から放射状に広げるか、二方向のレンズの働きをする。

物質を形成する互いに反対の二方向の螺旋が、波動フィールドの交差点の中心から広がり、同時にそれぞれの半サイクルの終わりに、静かな光の6つの鏡映面のうちの3点のシャフトに集中する。

この1、2、3の焦点に、中心が作られ、物質の正と負の元素になる。

ジャイロスコープに似た車輪のような光の回転する環が赤道に音律をつくる。

圧力の増加と減少は、各成分の密度と量を決定する。

スペクトルの色は、この圧力の記録で、オクターブの終わりから次のオクターブまでの全部で9つのあらゆる元素のオクターブサイクルの完全な来歴である。

p278

焦点の位置で、重力による減速と、放射による加速がおき、これと相似して、数学的比率を変え、螺旋の圧力も増加し、光のレンズの湾曲に影響を及ぼす。

図 76 と図 72 で図のように、波動軸であるジャイロスコープの車輪の中心の焦点の位置は影響を受ける。

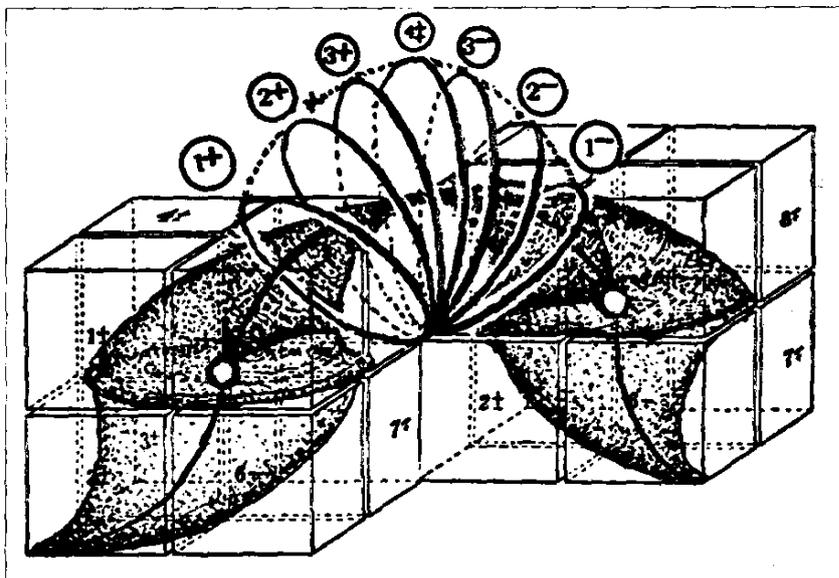


図 76 オクターブとジャイロスコープの原理、

Fig. 76 The octave gyroscopic principle

各元素は、連続する方向に従う距離の二乗であらわれる。

重力の方向はマイナスの二乗である、反対方向はプラスの二乗である。

各連続する元素の量は、立方体の様にプラスのまたはマイナスの影響を受ける。

p279

ジャイロスコープの 8 つの輪が全オクターブであるが、その中の 6 つは、2 つある 3 つの境界フィールドの鏡面からの、互いに通過する 2 方向の対立する光の、幾何学的投影によって、説明される。立方体の 8 つの波動フィールドの会合の休止点で、4 つのトーンが、作り上げられる。

これは、地球または太陽の運動の重心として、湾曲の終わる、休止点として知られている。

このように隣接する波動フィールドである、1 サイクルの 8 つの波が出会うことで球は完成される。

休止点のシャフトの周囲を波動領域が、回る。

この理由のために、4-0-4 の中心位置は 1 点でバランスし

2 つのジャイロスコープの車輪の 1 つは黄色がかったオレンジに減色され、他の 1 つは黄色がかった緑になる。そして、白が中心にある。

2 点は、回転する球の静止軸をつくり、表面を通る静かな磁極の光のシャフトは、各球の回転のバランスを制御する。

これらの北の磁極は、電気力によって求心的な密度と球の収縮回転を制御し、南の磁極は空間への遠心的な放散を制御する。

我々の地球のような偏球した惑星でなく、太陽のような充分発達した球では、磁極は、太陽の『回転軸にある。』

p280

地球の楕円率の計測に従って、回転軸から磁極は、移動する。

物質の元素は、星の極小化されたシステムである。

1 つにあてはまる法則と原則は他のあらゆるものにもあてはまる。

太陽系はジャイロスコープの車輪であるが、元素の連続的つながりの中で鉄の占める位置も同じである。

さらに少し螺旋形になると、炭素原子に一致する。太陽は完全な球であり、新しい惑星もまた、完全な球である。

ジャイロスコープ原則は互いの元素の関係と原因の自然法則を説明する。

全ての混合物を分解して、元素をジャイロスコープのように分類する。

人間が 1 つの元素を変える努力は、この原則によるべきで、別の物質が「電子の 1 つをたたき出すことで可能だ」という理論とは違う方法でなされなければならない。」

「物質」を元素として考える限り、太陽系にある惑星か、原子のシステムの中にあるかに違いはない。

両親の国籍を一人の子供が変更させることよりも、元素の一つ以上加えるか、減らすかで、物質を、変化させるのは困難である。

旋回する平面の振幅と速度に気がつくとき、変化はジャイロスコープの回転に単純化され、その静的シャフトの、密度の増減で質量が変わる。

p281

この原則をうまく適用すると新しい金属の可能性が、多大にうまれる。

THE SHAPE OF THE UNIVERSE

時間のない世界に、形はない。

うわべは無限の拡張があるが、その拡張はただの反射である。

一連の互いに反射する鏡が作る湾曲するレンズ以外に、電気的な宇宙には二方向に拡張する光がある。

そのみかけの拡張は、鏡の部屋の中の、光に例えられるかもしれない。

この囲いの中で反射する1つの光は表面上無限に広がるが、反射する灯りは同じ1つの灯りである。

反射する光の発散は、現実ではない。

連続と、不連続の対立する考えは、鏡像効果が生まれる最初の原因を考えることから生れる。

時間の流れを推量することから連続という観念が存在する。

時間は、この宇宙を構成する効果の1つである。

時間には2本の流れがあるが、感覚は前方への流れだけを見る。

人は、前方への流れを相殺する時間反転の流れを見つけられない。

波動宇宙が非現実的であるのと同じように、時間は非現実的である。

波動原則の1つの真実は、全ての波動にあてはまる。

ゼロ平衡から、二方向に拡張され反映された各波を、我々は振動と言う。

p282

振動は現れては消え、休止点で単独で存在を明らかにし、休止点から再び現れる。

1つの振動としての波は宇宙のZeroの静寂に消え、あらゆる振動が宇宙のゼロの静寂に消える。

振動する波を派生させる0宇宙には、見かけ以外の形は存在できない。

THE VOIDING PRINCIPLE、

これは三次元世界の力の機械的運動に秘められた0宇宙である。

あらゆる自然のどんな動作も、ゼロで終わり、再びゼロから始まり最高9をカウントする。

それは9を越えることができない、しかし、それは9まで、行かなければならない。

9が、宇宙である。

立方体の8の波動の場の中心にある重力はゼロの球であり、9は宇宙である。

我々の十進法は、立方体球の波動フィールドに基づく。

これは、次の通りである：

4に単純化	0-	1	2	3	4	-o	4	3	2	1	0
10進法	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

音階と自然のスペクトルは、波動フィールドのトーン音階と一致する。

これらは、次の通りである：

	0-	1	2	3	4	-o	4	3	2	1	0
	(基調)					(オーバー ン)					(基調)
音階 で	ド	レ	ミ	ファ	ソ	休止点	ソ	ファ	ミ	レ	ド
スペ	黒	レッド	レ ッ	オレンジ	黄	白	黄	緑	青	青	黒

クト ル		violet	ド							vio let
---------	--	--------	---	--	--	--	--	--	--	------------

p283

図 75 は、この事実を示す。

3 つの面の中心にゼロがおかれる。

これらの全て交差する平面は、最高 8 になる。

これらの中心にある 0 を加えて 8 は、9 になる。

同様に、立方体の 6 つの面の交差点を数えると最高 8 になる。

また、動きには 8 つの方向と 8 つの反応がある；

4 つの各存在は対になって 8 つになる。それは中心の 0 を加えて 9 になる。

『長さの 3 X 3 は 9 である、幅と高さはゼロから広がった。

どんな長さ、幅、そして、高さの現れも中心にある 2 つのゼロ点の拡張にある (図 2)。

(p 219)

ゼロ点は両方とも等ポテンシャルの状態なので「長さ」と「幅」は静的である。

「高さ」は放射状なのでダイナミックである。

物質と空間の普遍的特性 9 は休止点の 3 つの鏡像である。各々それ自体を他に、映す。(中心の休止点で互いに直角の 3 つの中でどれを広げるか、決定する) (図 75)

(図 75)

オクターブの普遍的特性 9 は立方体の 4 対の角の 8 つのゼロは、立方体の中心にあるゼロから、斜めに広がる互いに対立する圧力である。

ゼロからゼロへと計測される拡張は、拡張への欲求である。

ゼロからゼロへの拡張欲求は、ゼロエネルギーである。

ゼロからゼロに広げられたエネルギーは、欲求の圧力の増加と減少でバランスをつくる。

信用と貸し出しが等しくなるように、対立する位置が、条件づけられる。

全てのこれらのバランス効果の合計は、ゼロである。

増加し減少する Zero でバランスした圧力は、運動と反応として現れる。(図 75)

運動欲求は中心の 0 から反対の休止点への拡張エネルギー圧力の鏡への投影である、それは、表出欲求の計測を要求し、中心の 0 休止点にそれを映す。

このように二重に反映された運動の合計は、ゼロである。

表出欲求の遂行の表現と同時に、欲求を成し遂げるとき、後ろ向きに広げられ反射されたゼロが、必ず宇宙の休止点にある。

ゼロからゼロへの、拡張または、収縮の結果、割るか掛るか、減らすか増加する。

これは、宇宙の時間内の順番の運動の全ての効果が 0 の宇宙でありイメージの蜃気楼の宇宙であるそれは、2 つが否定しあう宇宙である

どちらもが、同時に互いをキャンセルして、幻想をつくるために順番に彼らの否定を繰り返す

ゼロは、足され引かれ、掛けられ、割られ、あるいは、

決してありもしない、起こることもない現実をつくる。

それは、天地創造である。(図 75)

それは、知の想像である。
知は、光である。
光は、静かである。想像は、考えることである。

p284

思考は想像である、運動反応は休止点のゼロに休止点のゼロを映す。
これは、永遠の宇宙の知の光である。
その中に活動はない。
だが、我々の感覚とはなんだろう？
我々の感覚は、我々に現実を告げる。
だが、我々の感覚は、現実には適合しない。
これらは、我々を非常によくだます。
それは、天地創造を理解できない。
ほとんど全体を感覚することができない。
もしも感覚が全体を見たら、動きはない。
感覚のために人の運動感覚の記録は、運動以外のものである。
運動は、見かけの幻影である。
それは、存在しない。
感覚はそれを知らず、感覚は知っていると思いこんで人は混乱し、うそを信じる。

感覚は運動がないのに、ものの動きを感じ、
鏡に反射した動く光をものが動くと感じる。
これらは、衝突させ圧縮させる前方への移動を感じるが、これに対応する不可視の映された部分を記録しない。
ポテンシャルと速度が同等の、平面の背後の真空への過去への移動は、同時に、前の圧縮を無効にする。
前方へ動きとその逆の流れの原因の理解の不十分から状況と時間の幻想がうまれる。

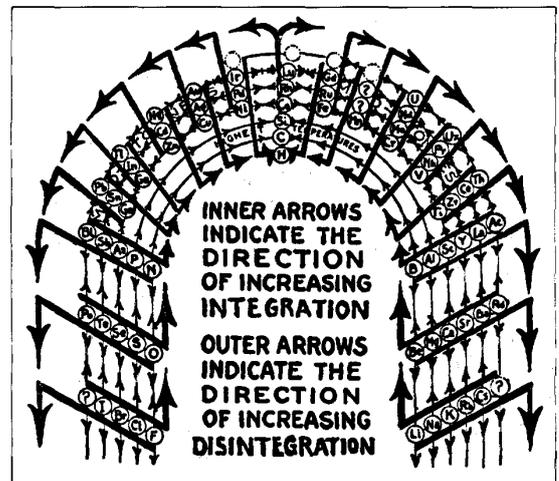


Fig. 77
Opposite actions simultaneously void each other

INNER ARROWS 内側への矢は崩壊の増加
INDICATE THE DIRECTION OF INCREASING
INDICATION

OUTER ARROWS 外側への矢は統合の増加
INDICATE THE DIRECTION OF INCREASING DISINTEGRATION

図 77

図 77 既知の全ての元素全部の連続体は 2 本の逆に広がる矢で図解される。この原則は、統合と崩壊が同時に釣り合うことを示す。

自然の正反対に広がった信用と借方の間に時間経過は少しもない。

図 78 は、全ての元素を対立した状況の組み合わせとして図解する。

各線は、その対立するペアを接続する。

ペアの各々は、他を否定する。

287

図 78

この宇宙の物質は、ゼロを決して上回らず、相互に否定するペアから成る、図 18 の 2 つのタンクの中の空気、または、231 ページの図 19 の蓄電池のように、条件づけられている。

これらの基本的なペアのそれぞれは、同じように中心のゼロ支点から対立し拡張して投影される。

全効果の支点は、唯一、神の光である。

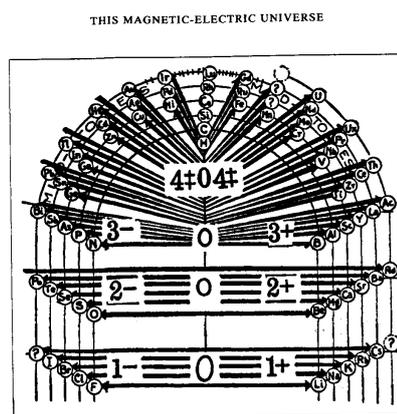


Fig. 78
This universe of matter is composed of pairs of negations
which never exceed zero

p288

アクションが、起こり、無にされ、またそれが無にされることが、繰り返され、その繰り返しが、記録される。

『「神のイリアッドより!」』

